

ごあいさつ



このたびは、弊社の CELSIUS（セルシウス）330 をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

CELSIUS 330 は、高速な計算能力と表示能力を備えたワークステーションです。

本書は、CELSIUS 330 のハードウェアの取り扱い方法を説明しています。

あらかじめインストールされているソフトウェアの操作方法については、添付のマニュアル『ソフトウェアガイド』を参照してください。

本書をご覧になり、CELSIUS 330 を正しくお使いいただきますよう、お願いいたします。

2001 年 12 月

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。


本装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

高調波ガイドライン適合品

本ワークステーションには、“外国為替及び外国貿易法”に基づく特定貨物が含まれています。従って、本ワークステーションを輸出する場合には、同法に基づく許可が必要とされる場合があります。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。



国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化促進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリ及び複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（）は、参加各国の間で統一されています。ただし、OS（Windows NT 等）の制限上、本製品の省エネルギー機能が使用できない場合もあります。

Microsoft、Windows、Windows NT、MS、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel および Pentium は、米国インテル社の登録商標です。

その他の各製品は、各社の商標、登録商標または著作物です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2001

本書の読みかた



本書は、CELSIUS 330 の基本的な取り扱い方法を解説しています。本書で解説していない周辺装置の取り扱い方法については、各周辺装置に添付されている取扱説明書をご覧ください。

本書の構成

章	内容
第 1 章 はじめに	本ワークステーションの設置から各種ケーブルを接続するまでの方法、電源の入れかた / 切りかた、および媒体の取り扱い方法などを説明しています。 必ずお読みください。
第 2 章 内蔵オプションの取り付け	メモリや拡張カードなどの内蔵オプションを本ワークステーションに取り付ける方法を説明しています。 必要に応じてお読みください。
第 3 章 BIOS 設定	本ワークステーションのハードウェアの環境を設定する BIOS 設定 (CMOS Setup ユーティリティ) というプログラムについて説明しています。 必要に応じてお読みください。
第 4 章 困ったときに	本ワークステーションを使用していて思うように動かないとき、エラーメッセージが表示されたときにどうすればいいかを説明しています。 必要に応じてお読みください。
付録	本ワークステーションの各部の名称や本ワークステーションのお手入れのしかた、本体仕様、注意事項などの説明をしています。 ひととおりお読みください。

安全にお使いいただくために



本書には、本ワークステーションを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本ワークステーションをお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の冒頭の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本ワークステーションをお使いください。

また、本書は、本ワークステーションの使用中にいつでも参照できるよう大切に保管してください。

安全上のご注意

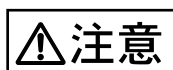


本ワークステーションおよびそのオプション装置を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

感電



△ で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。

分解



⊘ で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が示されています。

プラグ



● で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が示されています。

万一、異常が発生したとき



プラグ



- 万一、装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに装置本体の電源を切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が消えるのを確認して、担当営業員または担当保守員に修理をご依頼ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 異物（水・金属片・液体など）が装置の内部に入った場合は、ただちに装置本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
その後、担当営業員または担当保守員にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本ワークステーションを落したり、カバーなどを破損した場合は、ワークステーション本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、担当営業員または担当保守員にご連絡ください。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

本体の取り扱いについて



プラグ



- 近くで雷が起きたときは、電源ケーブルやモジュラケーブルをコンセントから抜いてください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

分解



- 本ワークステーションをお客様自身で分解改造しないでください。
感電・火災の原因となります。
- ワークステーション本体のカバーや差し込み口についているカバーは、オプション装置の取り付けなど、必要な場合を除いて取り外さないでください。
内部の点検、修理は担当営業員または担当保守員にご依頼ください。
内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。

水 気



- 風呂場、シャワー室などの水のかかる場所で本ワークステーションを使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

禁 止



- ディスプレイに何も表示できないなど、故障している状態では本ワークステーションは使用しないでください。
故障の修理は担当営業員または担当保守員にご依頼ください。
そのまま使用すると感電・火災の原因となります。
- 開口部（通風孔など）からワークステーション本体内部に、金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。
感電・火災の原因となります。
- 本ワークステーションの上または近くに「花びん・植木鉢・コップ」などの水が入った容器、金属物を置かないでください。
感電・火災の原因となります。
- 台所など湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に本ワークステーションを設置しないでください。
感電・火災の原因となります。
- 本ワークステーションに水をかけたり、濡らしたりしないでください。
感電・火災の原因となります。
- 添付の電源ケーブル以外は使用しないでください。
感電・火災の原因となります。
- カバーを外した状態で電源プラグをコンセントに差したり、電源を入れたりしないでください。
感電・火災の原因となります。
- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
また、タコ足配線をしないでください。
感電・火災の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、感電・火災の原因となります。

禁 止



- 電源ケーブルや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。
故障の修理は、担当営業員または担当保守員にご依頼ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因となります。
- 電源ケーブルや電源プラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

感 電



- 電源ケーブルを抜いたあと、プラグに触らないでください。
感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。

指 示



- 電源プラグの金属部分、およびその周辺にほこりが付着している場合は、かわいた布でよく拭いてください。
そのまま使用すると、火災の原因となります。

アース



- アース接続が必要な装置は、電源を入れる前に、必ずアース接続をしてください。
アース接続をしないと感電のおそれがあります。
また、アース線は、ガス管には絶対に接続しないでください。
火災の原因となります。

警告



- 取り外したカバー、キャップ、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。
万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

プラグ



- 本ワークステーションを移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続ケーブルなどもはずしてください。
作業は足元に十分注意して行ってください。
電源ケーブルが傷つき、感電・火災の原因となったり、本ワークステーションが落下したり倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 本ワークステーションを長期間使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因となることがあります。

⚠ 注意

禁止



- 電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。
電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、感電・火災の原因となることがあります。
- 装置の開口部（通風孔など）をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 直射日光の当たる場所や炎天下の車内など、高温になる場所に長時間放置しないでください。
高熱によってカバーなどが加熱・変形・溶解する原因となったり、ワークステーション本体内部が高温になり、火災の原因となることがあります。
- 使用中の装置は布などでおおったり、包んだりしないでください。
熱がこもり、火災の原因となることがあります。

⚠ 注意

禁止



- 電源ケーブルを束ねて使用しないでください。
発熱して、火災の原因となることがあります。
- 本ワークステーションの上に重いものを置かないでください。
また、衝撃を与えないでください。
バランスが崩れて倒れたり、落下したりしてけがの原因となることがあります。
- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。
倒れたり、落下したりしてけがの原因となることがあります。

指示



- 電源ケーブルを接続するコンセントは、本ワークステーションのそばに設けてください。
火災の原因となることがあります。
- 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
火災・故障の原因となることがあります。
- ディスプレイなど、重量のある装置を動かす場合は、必ず2人以上で行ってください。
けがの原因となることがあります。

指示



- CD をセットおよび取り出すときには、トレーに指などを入れないでください。
けがの原因となります。
- フロッピーディスクをセットおよび取り出すときには、差し込み口に指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。
- レーザ光の光源部を直接見ないでください。
目を傷める原因となることがあります。

オプションの取り扱いについて



感電



- オプション装置の取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。
- オプション装置を接続する場合は装置停止後、十分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となります。
- オプション装置を接続する場合は、弊社純正品をご使用ください。
感電・火災または故障の原因となることがあります。
- LAN コネクタには指などを入れないでください。
感電の原因となります。

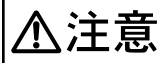
電池の取り扱いについて



警告



- 使用している電池を取り外した場合は、小さなお子様が電池を誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。
万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。



禁止



- 電池はショートさせたり、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしないでください。
電池の破裂、液もれにより、けが・火災や周囲を汚す原因となることがあります。
- 使用済みの電池を廃棄する場合は、他のゴミと一緒に捨てないでください。
火中に投げると破裂のおそれがあります。

その他

警告

指 示



- 梱包に使用しているポリ袋はお子様が口に入れたり、かぶって遊んだりしないよう、ご注意ください。
窒息の原因となります。

注意

指 示



- 本ワークステーションを無理な姿勢で長時間使い続けると、腰痛や腱鞘炎の原因となる場合があります。以下に示すような正しい姿勢で使用し、1時間に10分以上休憩をとってください。
 - いすに深く腰かけ、背筋を伸ばす。
 - いすの高さを、足の裏全体がつく高さに調節する。
 - ひじは90度以上に伸ばして操作する。
- ディスプレイを長時間見続けると、「近視」「ドライアイ」等の目の傷害の原因となる場合があります。1時間に10分以上の休憩をとってください。また、なるべく画面を下向きに見る位置にする、意識的にまばたきをする、場合によっては目薬をさすなどしてください。
- ヘッドフォンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。耳を刺激するような大きな音を長時間続けて聴くと、聴力が低下するなど、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
- ヘッドフォンをしたまま電源スイッチを入れたり切ったりしないでください。
刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
- 本ワークステーションは、他のゴミと一緒に捨てないでください。
この装置はリチウム電池を使用しており、火中に投げると破裂のおそれがあります。

装置の廃棄

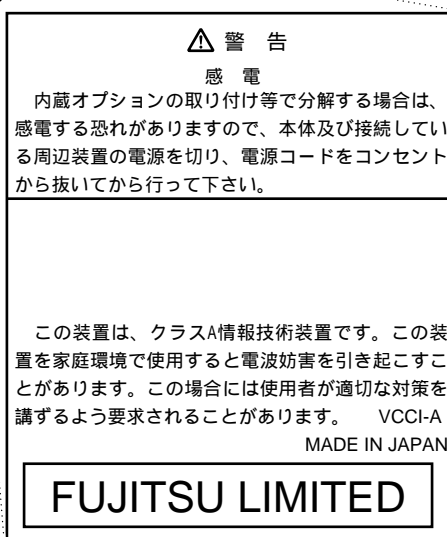
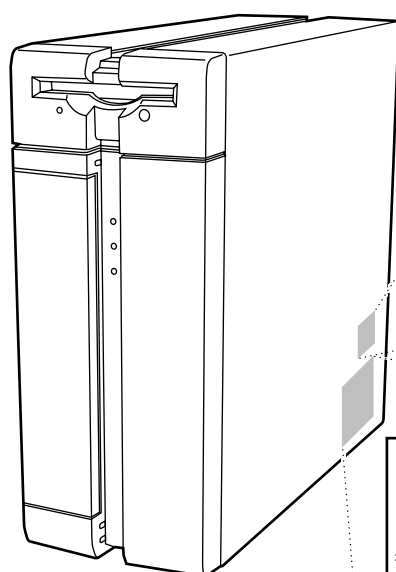
本ワークステーションを廃棄する場合、担当営業員または担当保守員に相談してください。本ワークステーションは産業廃棄物として処理する必要があります。

警告ラベル

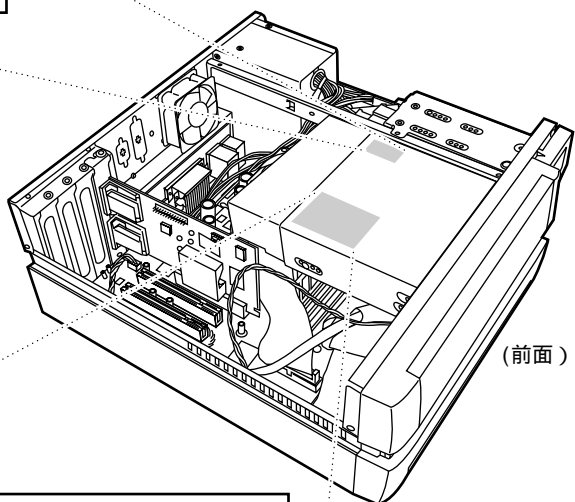


本製品には、下図のように警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルは、絶対にはがさないでください。また、汚れてメッセージなどが見えにくくなった場合は、担当営業員または担当保守員まで連絡してください。

ワークステーション本体側面



ワークステーション本体内部



(前面)

 **注意**

取扱注意

メモリーモジュールを挿抜する前に必ずビデオカードを外してください。
また、ビデオカードにスロット部のレバーがぶつからないようにメモリーモジュールを正しく固定してください。
ビデオカード取付時にレバーがビデオカードに当たり破損、故障の原因となります。

本書の表記について



キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：[Ctrl] キー、[Enter] キー、[] キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：[Ctrl] + [F3] キー、[Shift] + [] キーなど

ボタンの表記

画面に表示されるボタンは、次のように [] で囲んで記述しています。

例：[OK]

コマンド入力

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
```

の箇所のように文字間隔をあけて表記している部分は、[Space] キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を1回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

本文中の表記

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。



ポイント

ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。



ヘルプ

操操作を間違えてしまったときの元の状態への戻しかたや、困ったときの対処方法が書いてあります。

連続する操作の表記について

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「-」でつないで記述しています。

例：[スタート]をクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

[スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」をクリックします。

画面例について

本書に記載されている画面は一例です。お使いのワークステーションに表示される画面やファイル名などが異なる場合があります。ご了承ください。

イラストについて

本書に記載されているイラストは一例です。取り付けるオプションによっては、使用するワークステーションと異なる場合があります。ご了承ください。

製品の呼びかたについて

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記しています。

Windows NT

Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 4.0 の略です。

Windows 2000

Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system の略です。

本ワークステーションまたはワークステーション本体

CELSIUS 330 を指します。

目次

第 1 章 はじめに..... 23

1	各部の名称と働き	24
	ワークステーション本体前面	24
	ワークステーション本体背面	26
	ワークステーション本体内部	28
	キーボード (OADG キーボード (109 キー)).....	29
	マウス	29
2	設置	30
	設置する場所について	30
	設置例	31
	テレビ / ラジオなどの受信障害防止について	31
3	接続	33
	ディスプレイ / キーボード / マウス / LAN ケーブルの接続	34
	電源ケーブルの接続	35
4	電源を入れる	37
	電源を入れるときの注意事項	37
	電源の入れかた	37
5	電源を切る	39
	電源を切るときの注意事項	39
	電源の切りかた	39
6	リセットする	41
	ソフトリセット	41
	ハードリセット	42
7	フロッピーディスクについて	43
	フロッピーディスクのセット / 取り出し	43
8	CD について	45
	取り扱い上の注意	45
	CD のセット / 取り出し	46
9	ハードディスクについて	49

第 2 章 内蔵オプションの取り付け. 51

1	内蔵オプションを取り付ける前に	52
	内蔵オプションとは	52
	取り扱い上の注意	53
2	サイドカバーの取り外し / 取り付け	54

	サイドカバーの取り外し.....	54
	サイドカバーの取り付け.....	55
3	メモリの取り外し／取り付け.....	56
	メモリについて.....	57
	CD-ROM ドライブの取り外し／取り付け.....	57
	ビデオカードの取り外し／取り付け.....	59
	メモリの取り外し.....	60
	メモリの取り付け.....	61
4	拡張カードの取り付け／取り外し.....	62
	拡張カードの取り付け.....	63
	拡張カードの取り外し.....	64

第 3 章 BIOS 設定..... 65

1	BIOS 設定とは.....	66
2	操作方法.....	67
	CMOS Setup ユーティリティの操作方法.....	67
	Boot Menu の操作方法.....	69
3	CMOS Setup ユーティリティのメニューと項目の詳細... ..	70
	Product Information メニュー.....	71
	Standard CMOS Features メニュー.....	72
	Advanced BIOS Features メニュー.....	76
	Advanced Chipset Features メニュー.....	80
	Integrated Peripherals メニュー.....	81
	Power Management Setup メニュー.....	86
	PnP/PCI Configurations メニュー.....	92
	Frequency Control メニュー.....	94
	Load Default Settings.....	94
	Set Supervisor Password.....	94
	Set User Password.....	94
	Save & Exit Setup.....	95
	Exit Without Saving.....	95
4	BIOS のパスワード機能を使う.....	96
	パスワードの種類.....	96
	パスワードを設定する.....	96
	パスワードを変更／削除する.....	97
	パスワードを忘れてしまったときには.....	98

第 4 章 困ったときに..... 101

1	エラーメッセージ.....	102
	ビープ音をともなうエラー.....	102
	エラーメッセージ.....	102
2	こんなときには.....	104
3	どうしても解決できないときは.....	106
	機種名 / MODEL / カスタムメイド型番の表記場所.....	106
	連絡先.....	106
	情報サービス.....	106
	お問い合わせ前の確認シート.....	107

付録..... 109

1	システムボード	110
2	コネクタ仕様	112
3	お手入れ	117
	ワークステーション本体のお手入れ.....	117
	キーボードのお手入れ	117
	CD のお手入れ	117
	マウスのお手入れ	118
	フロッピーディスクドライブのクリーニング	119
4	筐体のセキュリティ	120
	施錠の方法	120
5	保守修理サービスのご案内	121
	契約サービス.....	121
	スポット保守サービス	121
6	保証について	122
7	その他の注意事項	123



1 はじめに

この章は、各部の名称と働きや電源の入れかた / 切りかたなど、本ワークステーションをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

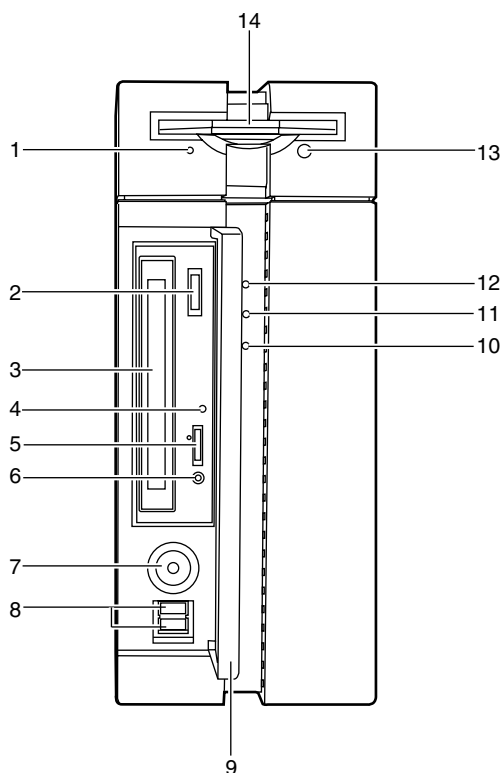
Contents

1 各部の名称と働き	24
2 設置	30
3 接続	33
4 電源を入れる	37
5 電源を切る	39
6 リセットする	41
7 フロッピーディスクについて	43
8 CD について	45
9 ハードディスクについて	49


1 各部の名称と働き

ここでは、ワークステーション本体、キーボードおよびマウスの各部の名称と働きを説明します。

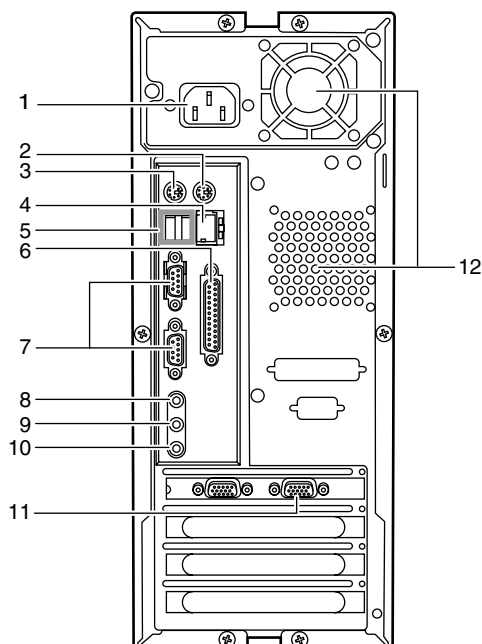
ワークステーション本体前面





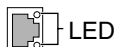
- 1 フロッピーディスクアクセス表示ランプ
フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み出したりしているときに点灯します。
- 2 EJECT ボタン
CD (CD-ROM や音楽 CD) をセットするときや、取り出すときに押します。
BUSY ランプが点灯しているときは押さないでください。
- 3 CD-ROM ドライブ
CD のデータやプログラムを読み出します。

- 4 BUSY ランプ
CD からデータを読み込んでいるときに点灯します。
- 5 ヘッドホンボリューム（音楽 CD のみ）
ヘッドホンを接続したときに、ヘッドホンの音量を調整します。
- 6 ヘッドホン端子（音楽 CD のみ）
市販のヘッドホンで音楽 CD を聴くときに、ヘッドホンを接続します。
- 7 電源スイッチ
ワークステーション本体の電源を入れるときや、スタンバイ状態にするとき、またはスタンバイ状態から復帰させるときに押します。
- 8 USB コネクタ（)
USB 規格（1.1）の周辺装置を接続します。
Windows NT ではサポートしておりません。
- 9 フロントパネル
電源スイッチや CD-ROM、USB コネクタを使用する場合に開きます。
- 10 リセットスイッチ
ワークステーション本体をハードリセットするときに押します。
- 11 ハードディスクアクセス表示ランプ
ハードディスクにデータを書き込んだり、ハードディスクからデータを読み出したたりしているときに点灯します。
- 12 電源ランプ
ワークステーション本体に電源が入っていないときは消灯しています。
ワークステーション本体に電源が入っているときは緑色に点灯します。
スタンバイ状態のときはオレンジ色に点灯します。
- 13 フロッピーディスク取り出しボタン
フロッピーディスクを取り出すときに押します。
フロッピーディスクアクセス表示ランプが点灯しているときは押さないでください。
- 14 フロッピーディスクドライブ
フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み出したります。

ワークステーション本体背面



- 1 インレット
ワークステーション本体の電源ケーブルを接続します。
- 2 マウスコネクタ ()
マウスのケーブルを接続します。
- 3 キーボードコネクタ ()
キーボードのケーブルを接続します。
- 4 LAN コネクタ (LAN)
非シールド・ツイストペア (UTP) ケーブルを接続します。
100Mbps で使用する場合には、カテゴリ 5 のケーブルが必要です。




LED







LED の意味は、以下のとおりです。

下部 LED 点灯：100Mbps で LINK を確立中

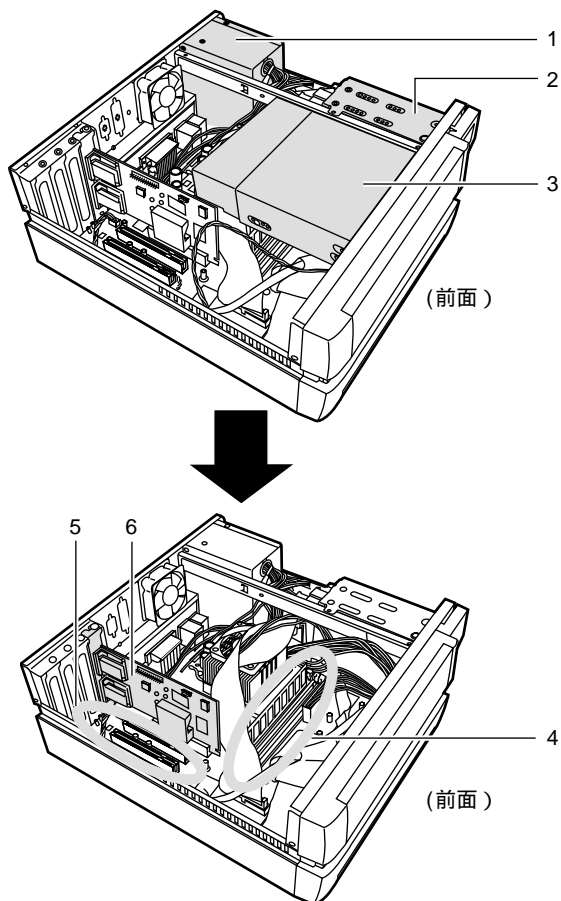
上部 LED 点灯：LINK を確立中

上部 LED 点滅：データを転送中

- 5 USB コネクタ ()
USB 規格 (1.1) の周辺装置を接続します。
Windows NT ではサポートしておりません。

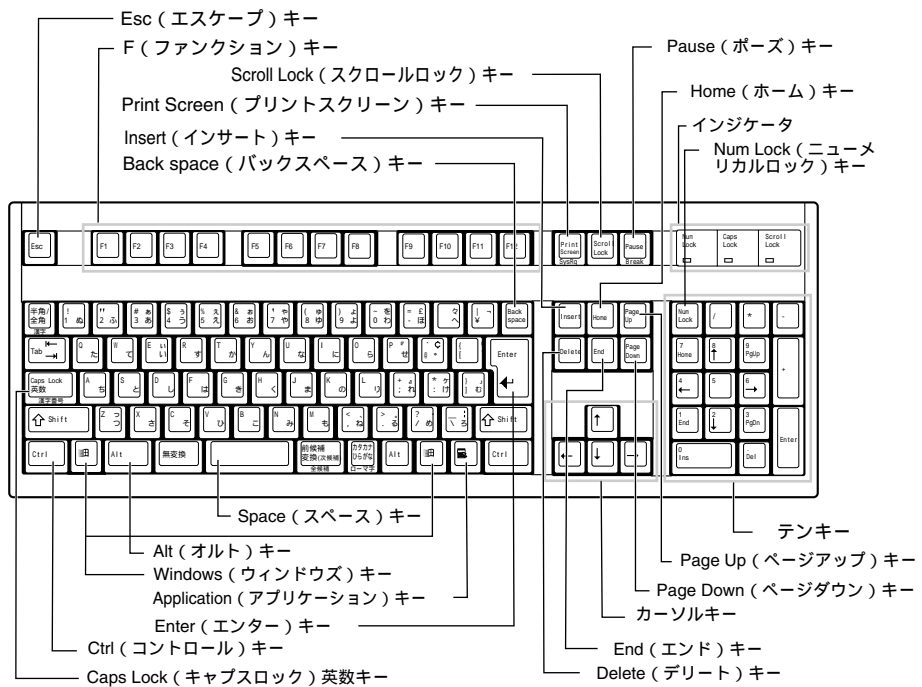
- 6 パラレルコネクタ ()
プリンタのケーブルを接続します。
- 7 シリアルコネクタ ()
モデムなど RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。
上から 1 ~ 2 と並んでいます。
- 8 LINE OUT 端子 ()
オーディオ機器の入力端子を接続します。
スピーカーを直接接続する場合は、アンプ内蔵のものをお使いください。
- 9 LINE IN 端子 ()
オーディオ機器の出力端子を接続します。
- 10 マイク端子 ()
市販のコンデンサマイクを接続します。
- 11 ディスプレイコネクタ ()
ディスプレイのケーブルを接続します。
- 12 通風孔 (冷却ファン)
ワークステーション本体内部の熱を外部に逃すための開孔部です。

ワークステーション本体内部



- 1 電源ユニット
- 2 3.5 インチファイルベイ
上にフロッピーディスクドライブ、下に内蔵ハードディスクユニットが取り付けられています。
- 3 5 インチファイルベイ
CD-ROM ドライブが取り付けられています。
- 4 メモリスロット
メモリを3枚まで搭載することができます。
- 5 拡張スロット
拡張カードを取り付けます。
- 6 ビデオカード

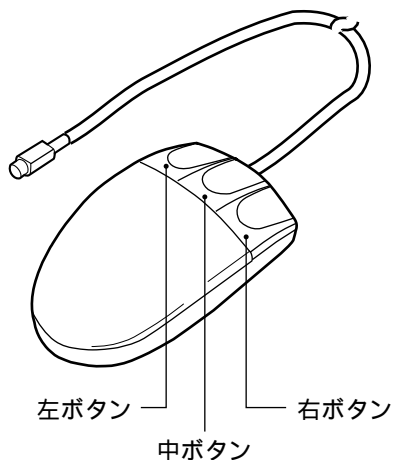
キーボード (OADG キーボード (109 キー))



1

はじめに

マウス



2 設置

本ワークステーションの設置方法、ご使用になるうえでの注意事項について説明します。

設置する場所について

本ワークステーションは、水平で安定した場所に設置し、次の場所は避けてください。

- 湿気やほこり、油煙の多い場所
- 通気性の悪い場所
- 火気のある場所
- 風呂場、シャワー室などの水のかかる場所
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温（35℃以上）になる場所
- 10℃未満の低温になる場所
- 電源ケーブルに足がひっかかる場所
- テレビやスピーカーの近くなど、強い磁界が発生する場所
- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所



装置の開口部（通風孔や冷却ファン）をふさがないでください。
通風孔や冷却ファンをふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因
となることがあります。

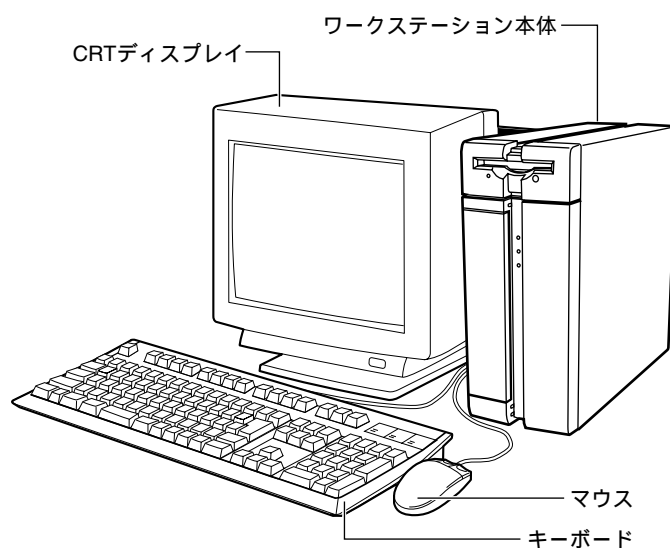


ポイント

ワークステーション本体は、壁などから 10cm 以上離して設置
してください。

設置例

本ワークステーションは次のように設置してください。



1

はじめに



ポイント

本ワークステーションは横置きではご使用になれません。

テレビ／ラジオなどの受信障害防止について

本ワークステーションは、テレビやラジオなどの受信障害を防止する VCCI の基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本ワークステーションの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じて、本ワークステーションの故障ではありません。

テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、以下のことにご注意ください。

本ワークステーション側での注意点

- 本ワークステーションのカバーをはずした状態で、使用しないでください。
- 周辺装置と接続するケーブルは、指定のケーブルを使用し、それ以外のケーブルは使用しないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかり締めてください。
- 本ワークステーションの電源プラグは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

テレビやラジオ側での注意点

- テレビやラジオなどを、本ワークステーションから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートの本ワークステーションから遠ざけてください。
- アンテナ線は同軸ケーブルを使用してください。

本ワークステーションや周辺装置などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本ワークステーションや周辺装置など全体の電源を切ることで確認することができます。

テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、上記の項目を再点検してください。

それでも改善されない場合は、担当営業員または担当保守員までご相談ください。

3 接続

1

はじめに

ワークステーション本体にディスプレイ、キーボード、電源ケーブルなどを接続します。

警告

アース



アース接続が必要な装置は、電源を入れる前に、必ずアース接続をしてください。

アース接続をしないと感電のおそれがあります。

また、アース線は、ガス管には絶対に接続しないでください。

火災の原因となります。

感電



- ディスプレイ、キーボード、マウス、LAN ケーブル、電源ケーブルの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている周辺装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。
- ディスプレイ、キーボード、マウスを取り付ける場合は、弊社純正品をご使用ください。
感電・火災または故障の原因となることがあります。

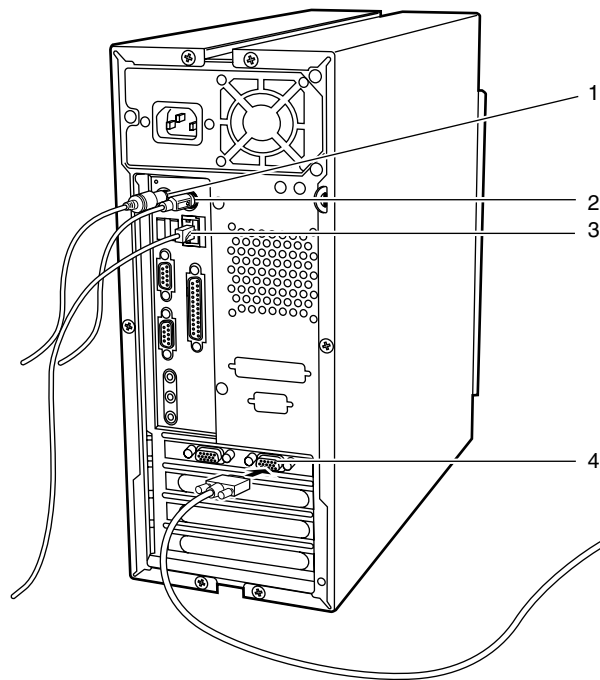
注意

指示



- ケーブルの接続は、間違いがないようにしてください。
誤った接続状態で使用すると、ワークステーション本体および周辺装置が故障する原因となることがあります。
- プリント板上の部品には、指定されている場所以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

ディスプレイ / キーボード / マウス / LAN ケーブルの接続



(1) キーボードの接続

キーボードケーブルのコネクタをワークステーション本体のキーボードコネクタに接続します。

(2) マウスの接続

マウスケーブルのコネクタをワークステーション本体のマウスコネクタに接続します。

(3) LAN ケーブルの接続

ツイストペアケーブルの片方のコネクタをワークステーション本体の LAN コネクタに接続します。もう片方を HUB などのネットワークのコネクタに接続します。



ポイント

- LAN ケーブルは、ツイストペアケーブルを使用します。添付されていないので購入してください。
- LAN ケーブルの接続については、本ワークステーションに添付のマニュアル『CELSIUS 330 ソフトウェアガイド』の指示に従ってください。

(4) ディスプレイケーブルの接続

ディスプレイケーブルのコネクタをワークステーション本体のディスプレイコネクタに接続して、ケーブルのコネクタのネジを締めます。

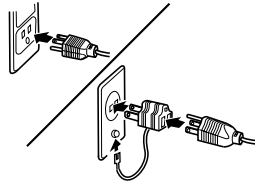
電源ケーブルの接続

ディスプレイなどの周辺装置を接続し終わったら、次の点に注意して本体の電源ケーブルを接続してください。

- 濡れた手でプラグを抜き差ししないでください。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
- 重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりしないでください。
- 電源ケーブルやプラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは、使用しないでください。
- プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、かわいた布でよく拭いてください。
- 電源ケーブルは、家庭用電源（AC100V）に接続してください。
- 電源ケーブルは、タコ足配線をしないでください。また、キーボードケーブルやマウスケーブルとからまないようにしてください。
- 近くで雷が起きたときは、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 2 ピンのコンセントに接続する場合は、添付の変換プラグを使用してください。また、その場合、必ずアース線を接続してください。
- プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ずプラグを持って抜いてください。
- プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
- 長期間使用しないときは、安全のため必ずプラグをコンセントから抜いてください。

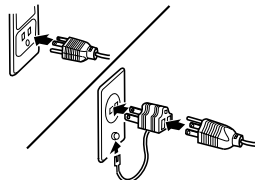
ワークステーション本体の電源ケーブルの接続

- 1 電源ケーブル（本体用）のプラグをワークステーション本体背面のインレットに接続します。
- 2 電源ケーブルのもう一方のプラグを、電源コンセント（AC100V）に接続します。
コンセントに接続する際にコンセントが2ピンの場合は、ワークステーション本体に添付の変換プラグを取り付けてから、コンセントに接続します。
アダプタプラグに付いているアース線を、アース端子にネジ止めします。



ディスプレイ本体の電源ケーブルの接続

- 1 電源ケーブル（ディスプレイ用）のプラグをディスプレイ背面のインレットに接続します。
- 2 電源ケーブルのもう一方のプラグを、電源コンセント（AC100V）に接続します。
コンセントに接続する際にコンセントが2ピンの場合は、ディスプレイに添付の変換プラグを取り付けてから、コンセントに接続します。
アダプタプラグに付いているアース線を、アース端子にネジ止めします。



4 電源を入れる

ここでは、電源の入れかたについて説明します。

電源を入れるときの注意事項

- ワークステーション本体の電源を入れる前に、必ずディスプレイが接続されていることを確認してください。ディスプレイを接続しないでワークステーション本体の電源を入れると、ディスプレイが認識されず、画面が正常に表示されない場合があります。
- 画面に何も表示されない場合は、ディスプレイの電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- 画面が中央に表示されない場合は、ディスプレイ側で調整してください。
- 電源を入れたあと、ディスプレイに「CELSIUS」ロゴが表示されている間に、本ワークステーションはワークステーション内部の装置をチェックする POST (Power On Self Test) を行います。POST 中は電源を切らないでください。POST の結果、異常があればエラーメッセージが表示されます。
- 画面表示の開始や表示モードが切り替わる時、一時的に画面が乱れたり、模様が見える場合があります (Windows の起動または終了画面、スタンバイ状態からの復帰時など)。これは故障ではありませんので、そのままご使用ください。
- 電源を切ったあとすぐに電源を入れる場合、または電源を入れたあとすぐに電源を切る場合は、10 秒間ほど間隔をあけてから行ってください。

電源の入れかた



注意

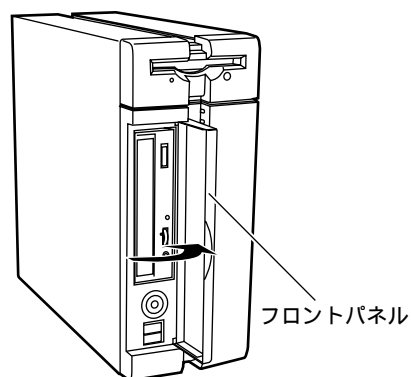


禁止

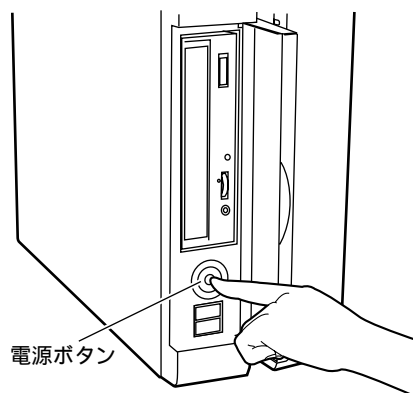
- 電源を入れた状態で持ち運んだり、衝撃や振動を与えないでください。故障の原因となります。
- 冬季など装置が冷えきっているときは、温度を急激に上げないようにして装置が十分暖まってから電源を入れてください。
装置内部に水滴がつき、故障の原因となることがあります。

- 1 ディスプレイの電源スイッチを押してディスプレイの電源を入れます。ディスプレイの電源ランプが点灯します。
この時点では、画面には何も表示されません。

2 フロントパネルを開きます。



3 ワークステーション本体前面の電源スイッチを押します。 電源ランプが緑色に点灯したあとで、システムが起動します。



ポイント

- 本ワークステーションをご購入後、初めてワークステーションの電源を入れたあとは、オペレーティングシステム（OS）のセットアップを行います。
本ワークステーションに添付のマニュアル『CELSIUS 330 ソフトウェアガイド』を参照して必ずセットアップを行ってください。
- 本ワークステーションをご購入後、オプション機器を取り付ける場合は、OS のセットアップを行ったあと、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。

5 電源を切る

ここでは、電源の切りかたについて説明します。

電源を切るときの注意事項

- 電源を切る前にすべての作業を終了し、データを保存してください。
- 電源を切る前に、フロッピーディスクやハードディスクのアクセス表示ランプが消えていることを確認してください。点灯中に電源を切ると、作業中のデータが保存できなかったり、フロッピーディスクやハードディスク内部のデータが破壊されたりする可能性があります。
- 電源が入っている状態で電源ケーブルをコンセントから抜いたり、停電によって電源が切断された場合は、再び電源ケーブルをコンセントに差し込むか、通電の再開を待ってください。電源スイッチを押す必要はありません。通電が再開すると自動的に電源が入り、本ワークステーションが起動されます。
ただし、BIOS 設定の「Power Management Setup」 - 「PWRON After PWE-Fail」が Off に設定されている場合には、電源が入りません。
- 通常の手段で電源が切れなかった場合や再起動できなかった場合、4 秒以上電源スイッチを押し続けて電源を切ってください。
ただし、電源スイッチを 4 秒以上押し続けて電源を切ると、ハードディスクを破壊するおそれがあります。緊急の場合以外は行わないでください。
- 電源を切ったあとすぐに電源を入れる場合は、10 秒間ほど間隔をあけてから行ってください。

電源の切りかた

Windows NT の場合

- 1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「コンピュータをシャットダウンする」をクリックし、「はい」をクリックします。
電源が自動的に切れます。



ポイント

- 「電源を切断しても安全です。」というメッセージが表示されて、電源が自動的に切れない場合は、電源スイッチを押して電源を切ってください。
- 次のように電源を切ることもできます。
 - 1 [Ctrl] + [Alt] + [Del] キーを押します。
「Windows NT のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 2 「シャットダウン」をクリックします。
「コンピュータのシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
 - 3 「シャットダウン後、電源を切る」をクリックして「OK」をクリックします。
電源が自動的に切れます。

Windows 2000 の場合

- 1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。
電源が自動的に切れます。



ポイント

- 次のように電源を切ることもできます。
- 1 [Ctrl] + [Alt] + [Del] キーを押します。
「Windows のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 2 「シャットダウン」をクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
 - 3 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。
電源が自動的に切れます。

6 リセットする

ソフトウェアをインストールした場合や、使用中のソフトウェアが何らかの理由で動かなくなった場合などに、リセットを行います。ここでは、リセットの方法について説明します。



ポイント

リセットすると、メモリ内のデータが消失します。リセットする前に、必要なデータは保存してください。

1

はじめに

ソフトリセット

Windows NT の場合

- 1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「コンピュータを再起動する」をクリックし、「はい」をクリックします。
本ワークステーションがリセットされます。



ポイント

次のようにリセットすることもできます。

- 1 [Ctrl] + [Alt] + [Del] キーを押します。
「Windows NT のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「シャットダウン」をクリックします。
「コンピュータのシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 「シャットダウン後、再起動する」をクリックして「OK」をクリックします。
本ワークステーションがリセットされます。

Windows 2000 の場合

- 1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。
本ワークステーションがリセットされます。



ポイント

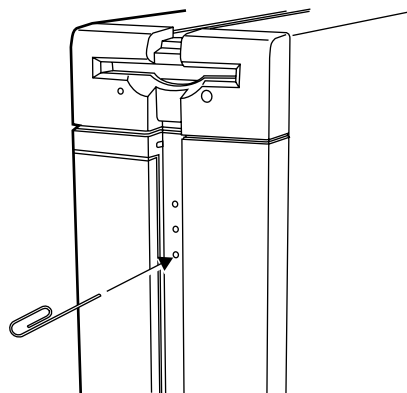
次のようにリセットすることもできます。

- 1 [Ctrl] + [Alt] + [Del] キーを押します。
「Windows のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「シャットダウン」をクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。
本ワークステーションがリセットされます。

ハードリセット

ハードリセットは、各種オプションカード、ハードディスクドライブ、フロッピーディスクドライブなどの周辺装置も初期化したい場合に行います。

- 1 本ワークステーションのリセットスイッチを、クリップを伸ばしたもので 1 秒間程度押してから戻します。



ポイント

何らかの原因によって、本ワークステーションが停止し、ソフトリセットができない場合は、上記の方法でリセットを行ってください。

また、本ワークステーションが停止しても、むやみに電源を切らないでください。

ハードディスク故障の原因となることがあります。

7 フロッピーディスクについて

本ワークステーションには、フロッピーディスクドライブが内蔵されています。
ここでは、フロッピーディスクの取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

1

はじめに

取り扱い上の注意

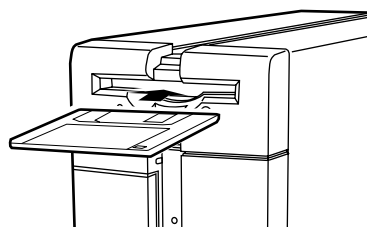
故障の原因となりますので、フロッピーディスクを使用するときは、次の点に注意してください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクにさわらないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 磁石などの磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください（ドライブにつまる原因になります）。
- 結露、または水滴がつかないようにしてください。

フロッピーディスクのセット／取り出し

フロッピーディスクのセット

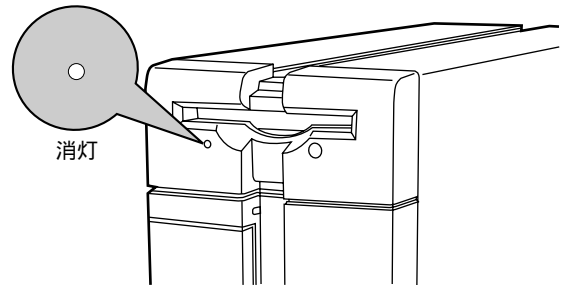
- 1 ラベルを上側に向け、シャッタのある側から、フロッピーディスクドライブに差し込みます。
「カシャッ」と音がして、フロッピーディスクがセットされます。



フロッピーディスクの取り出し

- 1 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認します。

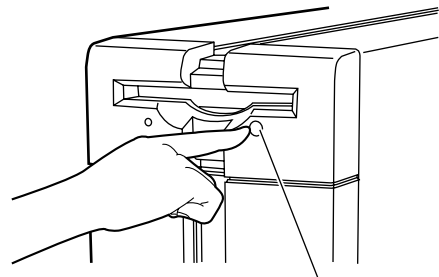
フロッピーディスク
アクセス表示ランプ



ポイント

フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。
データが破壊される可能性があります。

- 2 フロッピーディスク取り出しボタンを押します。
フロッピーディスクが出てきます。



8 CD について

1

はじめに

本ワークステーションには、CD-ROM ドライブが内蔵されています。

ここでは、CD (CD-ROM や音楽 CD) の取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、CD を使用するときには、次の点に注意してください。

CD 媒体の注意事項

- レーベル面 (印刷側) にボールペンや鉛筆などで字を書かないでください。また、ラベルなどは貼らないでください。
- 鏡面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 汚れたり、水滴がついたりした場合は、かわいた柔らかい布で中央から外側にむかって拭いてください (クリーナーなどは使用しないでください)。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。

ドライブの注意事項

- 「CD 媒体の注意事項」が守られていない CD、ゆがんだ CD、割れた CD、ヒビの入った CD はお使いにならないでください。故障の原因となります。
- 本ワークステーションは、円形の CD のみお使いになれます。円形以外の異形 CD は、お使いにならないでください。故障の原因となることがあります。異形 CD をお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 市販の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクをお使いにならないでください。
- 8cmCD をご使用になる場合は、市販の専用アダプタをお使いください。



ポイント

- CD-ROM は、音楽用 CD（コンパクトディスク）に、音の代わりにさまざまな情報（文字など）を保存したものです。ROM とは、「Read Only Memory」の略で、読み取り専用という意味です。本ワークステーションでは、CD-ROM の情報を読み取ることはできますが、書き込むことはできません。
- 本ワークステーションでは、下図のマークがついた CD のみご使用になれます。マークのない CD はご使用にならないでください。故障の原因となることがあります。

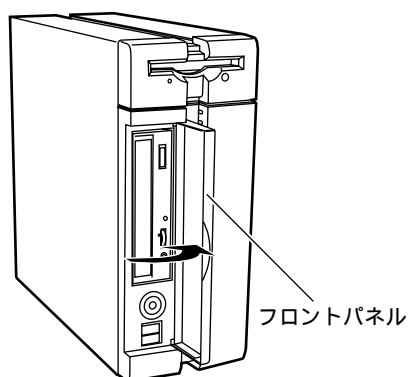


また、マークの種類によっては、別途アプリケーションが必要です。

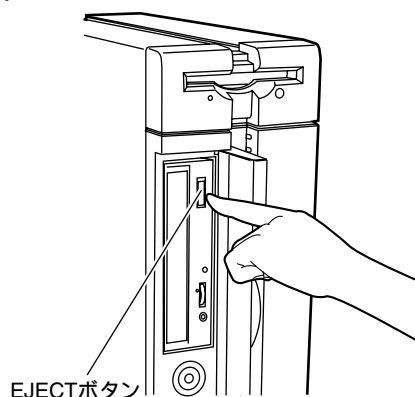
CD のセット / 取り出し

CD のセット

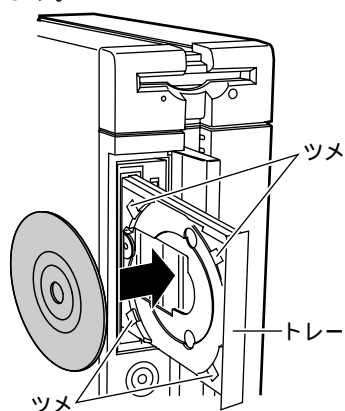
- 1 フロントパネルを開きます。



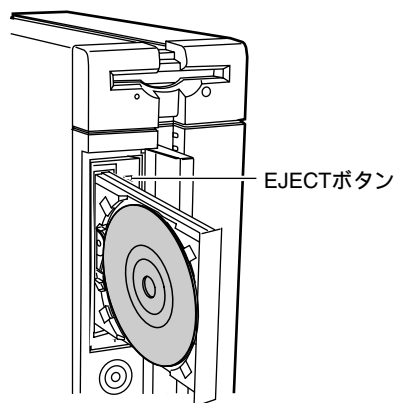
- 2 EJECT ボタンを押します。
CD をセットするトレイが出てきます。



- 3 CD のレーベル面を左にして、トレイの中央に置きます。
CD の落下を防止するためのツメで固定します。



- 4 EJECT ボタンを押します。
トレイがワークステーション本体に入り、CD がセットされます。





ポイント

- CD をセットすると、BUSY ランプが点灯します。BUSY ランプが消えるのを確認してから、次の操作に進んでください。
- トレーがワークステーション本体に入るときに、フロントパネルにぶつからないように注意してください。
- 再起動時には、自動的にトレーは入りません。EJECT ボタンを押して手動でトレーを入れる必要があります。

CD の取り出し

CD の取り出しは、BUSY ランプが消えるのを確認してから、EJECT ボタンを押して行ってください。



ポイント

CD の取り出しは、必ずフロントパネルを開いて行ってください。特に OS 上から取り出しを行う場合はご注意ください。フロントパネルを破損するおそれがあります。

9 ハードディスクについて

本ワークステーションには、ハードディスクが内蔵されています。
ここでは、ハードディスクの取り扱いについて説明します。

1

ハードディスクとは

ハードディスクは、ソフトウェアや情報を保存する装置です。ハードディスクは磁気ディスクを1つの箱に収めた構造になっています。フロッピーディスクに比べ、多くの情報を保存でき、情報の読み書きが速いのが特長です。

はじめに

取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、ハードディスクを使用するときは、次の点に注意してください。

- ハードディスクの内部では、情報を記録するディスクが高速に回転しながら、情報の読み書きを行っています。非常にデリケートな装置ですので、電源が入ったままの状態の本ワークステーションを持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。
- 極端に温度変化が激しい場所での使用および保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないでください。
- 衝撃や振動の加わる場所での使用および保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所での使用および保管は避けてください。
- 磁石や強い磁界を発生する装置の近くでの使用および保管は避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 結露、または水滴がつかないようにしてください。



ポイント

- 誤った取り扱いをすると、ディスク内のデータが破壊される場合があります。重要なデータは必ずバックアップを取っておいてください。
- 同一タイプのハードディスクでも若干の容量差があります。ハードディスク単位ではなくファイル単位、または区画単位でのバックアップをお勧めします。

2 内蔵オプションの取り付け

この章は、本ワークステーションに内蔵オプションを取り付ける方法を説明しています。

Contents

1 内蔵オプションを取り付ける前に	52
2 サイドカバーの取り外し / 取り付け	54
3 メモリの取り外し / 取り付け	56
4 拡張カードの取り付け / 取り外し	62

1 内蔵オプションを取り付ける前に

ここでは、内蔵オプションの概要および内蔵オプションを取り付ける前の準備として、サイドカバーの取り外し方法について説明します。

内蔵オプションとは

本ワークステーションは、さまざまなオプションを接続・内蔵して機能を拡張できます。

オプションの中には、機種によってはお使いになれないものがあります。

ご購入の前に、「CELSIUS シリーズ システム構成図」をご覧ください。そのオプションが使えるかどうかを確認してください。

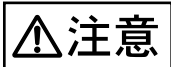


感電



オプション機器を接続する場合には、弊社推奨品以外の機器は接続しないでください。

感電・火災または故障の原因となります。



けが



- オプション機器の取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジを外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

故障



- ケーブル類の接続は本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態でお使いになると、本ワークステーションおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。

取り扱い上の注意

内蔵オプションを取り付けるときは、次の点に注意してください。

- 作業を行う前に、ワークステーション本体および接続されている装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源を切った直後は、ワークステーション内部の部品やユニットが熱くなっています。内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと十分に時間をおき、作業を始めてください。
- 電源ユニット（ワークステーション内部の背面側にある箱の形状をした装置）は分解しないでください。
- 内部のケーブル類や装置を傷つけたり、加工したりしないでください。
- 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱いの際は、必ず本ワークステーションに付属のリストストラップを着用してください。
リストストラップは、片方はシールをはがしてワークステーション本体背面に接着し、もう片方を手首に巻き付けて使用します。
- 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や、基板の縁を持つようにしてください。
- 弊社純正品以外のオプション機器の取り付けや分解を行った場合は、保証の対象外となります。



ポイント

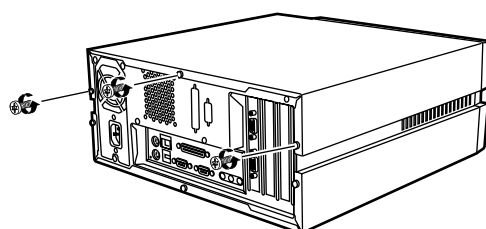
本ワークステーションをご購入後、オプション機器を取り付ける場合は、必ずオペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。

2 サイドカバーの取り外し／取り付け

内蔵オプションを取り付けるときは、サイドカバーを取り外して、内部が見える状態にします。

サイドカバーの取り外し

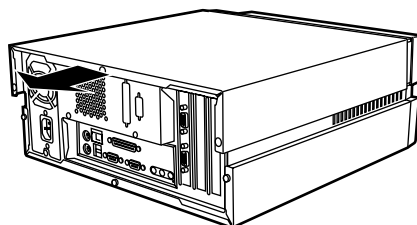
- 1 ワークステーション本体を横にします。
- 2 サイドカバーのネジを取り外します。



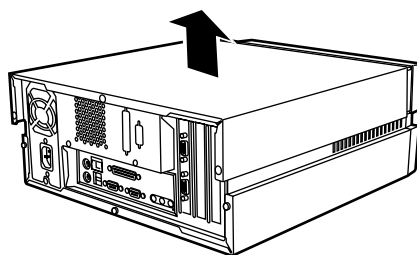
ポイント

取り外したネジはワークステーション本体の上に置かないでください。
本体の隙間から、ネジが本体内部に落下するおそれがあります。

- 3 サイドカバーを矢印方向に引きます。



- 4 サイドカバーを上を持ち上げて、ワークステーション本体から取り外します。



サイドカバーの取り付け

取り付けは取り外しと逆の手順で行ってください。

3 メモリの取り外し／取り付け

メモリの取り付けや取り外し方法を説明します。メモリを増やすと、一度に読み込めるデータの量が増え、ワークステーションの処理能力が上がります。



ポイント

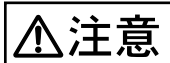
- ご購入後、メモリを取り付ける場合は、オペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。
- メモリは弊社純正品を使用してください。純正品以外のメモリを取り付けると、起動しません。
- 搭載可能なメモリは、「CELSIUS シリーズ システム構成図」で確認してください。



感電



- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。
- メモリを取り付ける場合は、弊社純正品をご使用ください。感電・火災または故障の原因となります。
- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、装置停止後、十分に待ってから作業を始めてください。やけどの原因となります。



禁止

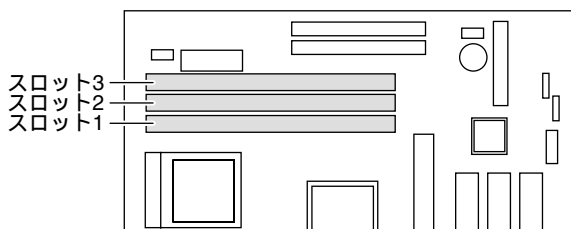


- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジははずさないでください。指定された場所以外のネジをはずすと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
- プリント板上の部品には、指定されている場所以外には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

メモリについて

メモリスロットには、128MB/256MB/512MB の SDRAM メモリモジュールを取り付けることができます。メモリは最大 1.5GB まで取り付けられます。

メモリは、スロット 1 ~ 3 の順番に取り付けてください。スロット 3 にメモリが入っているのにスロット 2 やスロット 1 にメモリが入っていないという状態がないようにしてください。

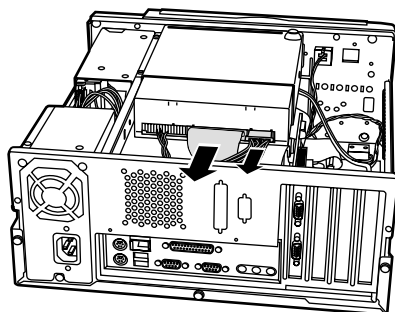


CD-ROM ドライブの取り外し / 取り付け

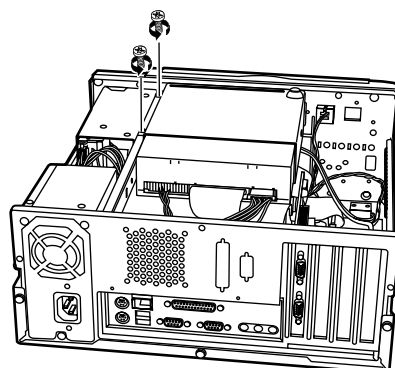
メモリを取り外したり取り付けたりする前に、CD-ROM ドライブを取り外す必要があります。

CD-ROM ドライブの取り外し

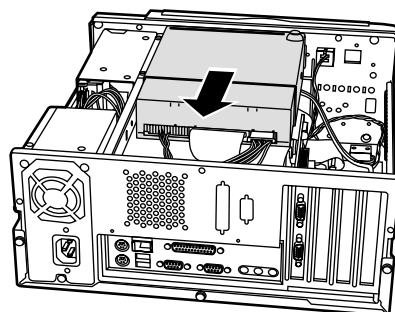
- 1 ワークステーション本体を横にします。
- 2 サイドカバーを取り外します。
- 3 CD-ROM ドライブに接続されている信号ケーブルおよび電源コネクタを取り外します。



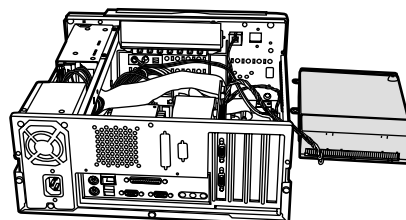
- 4 CD-ROM ドライブが取り付けられているファイルベイのネジを取り外します。



- 5 ファイルベイを矢印方向に引きます。



- 6 ファイルベイをワークステーション本体の脇に置きます。



CD-ROM ドライブの取り付け

CD-ROM ドライブの取り付けは、取り外しと逆の順序で行ってください。



ポイント

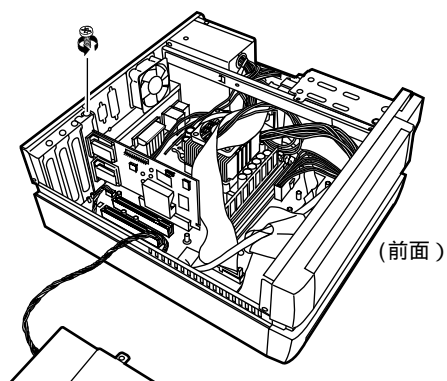
CD-ROM ドライブを取り付けたあとに、必ず CD-ROM ドライブに接続されているケーブルがCPUファンに当たっていないか確認してください。CPU を破損するおそれがあります。

ビデオカードの取り外し / 取り付け

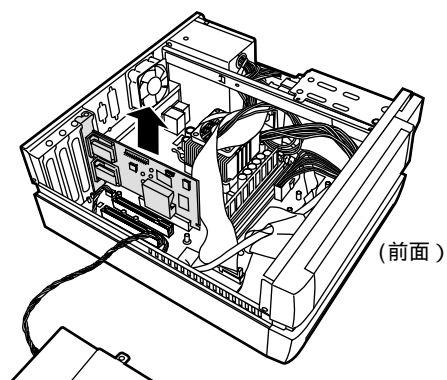
メモリを取り外したり取り付けたりする前に、ビデオカードを取り外す必要があります。

ビデオカードの取り外し

- 1 ビデオカードを固定しているネジを取り外します。



- 2 ビデオカードを引いて、取り外します。



ビデオカードの取り付け

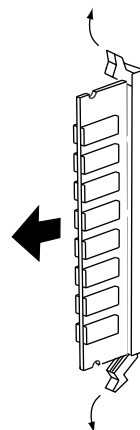
ビデオカードの取り付けは、取り外しと逆の順序で行ってください。

2

内蔵オプションの取り付け

メモリの取り外し

- 1 ワークステーション本体を横にします。
- 2 サイドカバーを取り外します。
- 3 CD-ROM ドライブとビデオカードを取り外します。
- 4 取り外すスロットの両側のレバーを外側に開きます。



ポイント

レバーを勢いよく開くと、メモリが飛び出し、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。

- 5 メモリをスロットから取り外します。

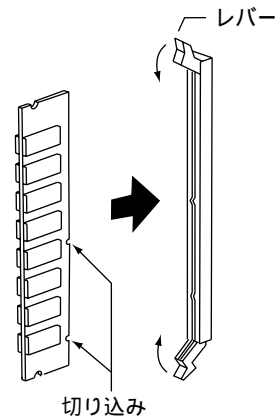


ポイント

取り外したメモリは大切に保管しておいてください。

メモリの取り付け

- 1 ワークステーション本体を横にします。
- 2 サイドカバーを取り外します。
- 3 CD-ROM ドライブとビデオカードを取り外します。
- 4 取り付けるスロットの両側のレバーを外側に開きます。
- 5 メモリをスロットに垂直に差し込みます。
メモリの切り欠け部分とスロットの切り欠け部分を合わせるようにして、スロットに垂直に差し込みます。



- 6 上下のレバーでモジュールを固定します。



ポイント

ビデオカードにレバーがぶつからないように、メモリモジュールを正しく固定してください。

- 7 ビデオカードと CD-ROM ドライブを取り付けます。
- 8 サイドカバーを取り付けます。

4 拡張カードの取り付け／取り外し

拡張カードを取り付ける方法を説明します。拡張カードは、本ワークステーションの機能を拡張します。



ポイント

- ご購入後、拡張カードを取り付ける場合は、オペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。
- 拡張カードは弊社純正品を使用してください。他社製の拡張カードのなかには、本ワークステーションで動作しないものがあります。
- 搭載可能な拡張カードは、「CELSIUS シリーズ システム構成図」で確認してください。



警告

感 電



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。
- 拡張カードを取り付ける場合は、弊社純正品をご使用ください。感電・火災または故障の原因となることがあります。
- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、装置停止後、十分に待ってから作業を始めてください。やけどの原因となります。



注意

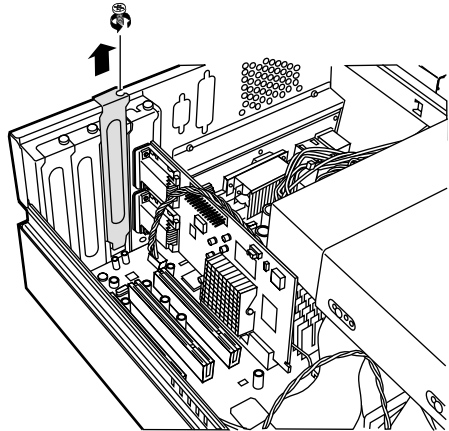
禁 止



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジははずさないでください。指定された場所以外のネジをはずすと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
- プリント板上の部品には、指定されている場所以外には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

拡張カードの取り付け

- 1 ワークステーション本体を横にします。
- 2 サイドカバーを取り外します。
- 3 スロットからスロットカバーを取り外します。
ネジ（1箇所）を外し、スロットカバーを取り外します。



2

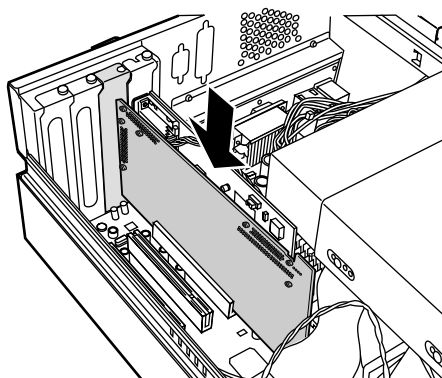
内蔵オプションの取り付け



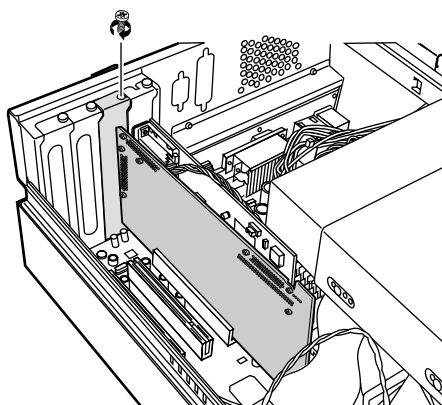
ポイント

取り外したスロットカバーは大切に保管してください。

- 4 拡張カードをスロットに差し込みます。
拡張カードをスロットの奥まで差し込みます。



- 5 ネジで固定します。
手順3で取り外したネジで拡張カードを固定します。



- 6 必要に応じて、ケーブルを拡張カードに接続します。
7 サイドカバーを取り付けます。
8 本ワークステーションの電源を入れます。
必要に応じて、拡張カードのデバイスドライバをインストールします。デバイスドライバをインストールして設定すると、拡張カードを使用できるようになります。

拡張カードの取り外し

取り外しは、取り付けと逆の手順で行ってください。

3 BIOS 設定

この章では、ハードウェアの環境を設定するために行う、BIOS（システム BIOS）設定について説明しています。

Contents

1 BIOS 設定とは	66
2 操作方法	67
3 CMOS Setup ユーティリティのメニューと項目の詳細	70

1 BIOS 設定とは

システム BIOS 設定は、「CMOS Setup ユーティリティ」と呼ばれるプログラムを使用します。

CMOS Setup ユーティリティはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本ワークステーションでは、必要最小限のことはお買い求めのときにすでに設定されています。次の場合のみ設定を行う必要があります。

- 特定の人だけが本ワークステーションを利用できるように、本ワークステーションにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- リソースの設定を変更するとき
- 電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS 設定に関するメッセージが表示されたとき



ポイント

CMOS Setup ユーティリティで設定した内容は、ワークステーション本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、バッテリーによって記録した内容を保存しています。CMOS Setup ユーティリティを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、CMOS Setup ユーティリティに関するエラーメッセージが表示される場合は、この CMOS RAM に設定内容が保存されていない可能性があります。バッテリーの消耗が考えられますので、担当営業員、または担当保守員にご相談ください。

2 操作方法

CMOS Setup ユーティリティの操作方法

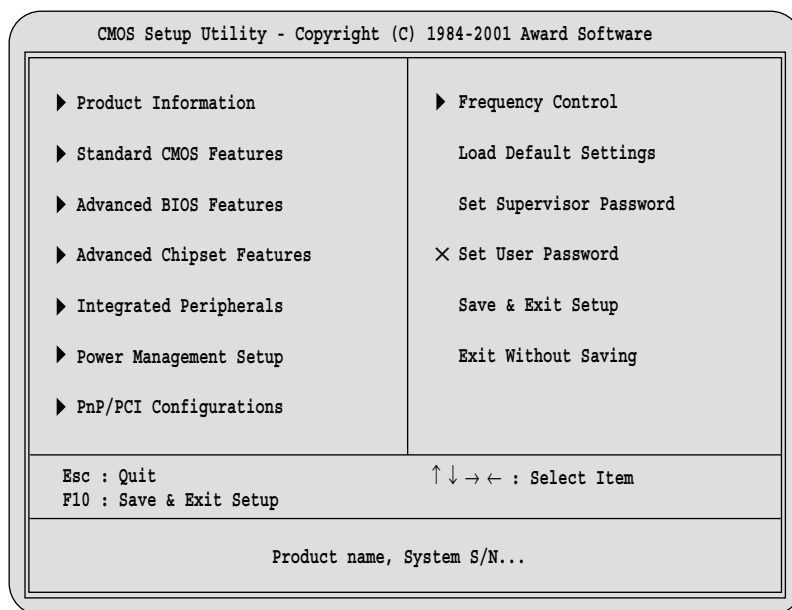
CMOS Setup ユーティリティ CMOS Setup ユーティリティの操作方法について説明します。

CMOS Setup ユーティリティを始める

CMOS Setup ユーティリティの始めかたは次のとおりです。

- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 「CELSIUS」ロゴが表示されている間に、[Ctrl]+[Alt]+[Esc] キーを押します。

CMOS Setup ユーティリティの Main メニューが画面に表示されます。



設定値を変更する

CMOS Setup ユーティリティで使用するキーの役割は、次のとおりです。

キー	役割
【↑】キー、【↓】キー、 【→】キー、【←】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【Enter】キー	項目を選択します。サブメニューがある場合は、サブメニューを表示します。
【Esc】キー	Main メニューでは、設定値を保存せずに CMOS Setup ユーティリティを終了します。その他のメニューでは前画面に戻ります。
【+】キー、【-】キー、 【Page Up】キー、 【Page Down】キー	選択した項目の設定値を変更します。
【F1】キー	ヘルプ画面を表示します。
【F5】キー	変更された設定値を変更前の設定値に戻します。
【F10】キー	設定値を保存し、CMOS Setup ユーティリティを終了します。

CMOS Setup ユーティリティの設定値は、次の手順で変更します。

- 1 [] [] [] キーを使用して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせ、[Enter] キーを押します。
サブメニューがある場合は、サブメニュー画面が表示されます。
手順 1 を繰り返して、設定値を変更する項目を選択します。サブメニューがある場合は、選択できる設定値が表示されます。
- 2 [] [] キーを押して変更したい設定値にカーソルを合わせ、[Enter] キーを押します。



ポイント

CMOS Setup ユーティリティの設定項目を変更する場合は、変更した設定項目をメモしておいてください。

CMOS Setup ユーティリティを終了する

CMOS Setup ユーティリティの終わりがたは、次のとおりです。

設定値を保存して終了する

- 1 [F10] キーを押します。または Main メニューで、[] [] [] キーを使用して「Save & Exit Seup」を選択し、[Enter] キーを押します。
「SAVE to CMOS and EXIT (Y/N)?」というメッセージが表示されます。
- 2 [Y] キーを押し、[Enter] キーを押します。
設定値が保存され、CMOS Setup ユーティリティが終了します。

設定値を保存せずに終了する

- 1 Main メニュー以外のメニューでは、何度か [Esc] キーを押して Main メニューに戻ります。
- 2 [Esc] キーを押します。または [F12] キーを使用して「Exit Without Saving」を選択し、[Enter] キーを押します。
「Quit Without Saving (Y/N)?」というメッセージが表示されます。
- 3 [Y] キーを押し、[Enter] キーを押します。
CMOS Setup ユーティリティが終了します。

設定値をご購入時の状態に戻す

CMOS Setup ユーティリティの設定をご購入時の状態（標準設定値）に戻す方法は、次のとおりです。

- 1 Main メニュー以外のメニューでは、何度か [Esc] キーを押して Main メニューに戻ります。
- 2 [F12] キーを使用して「Load Default Setting」を選択し、[Enter] キーを押します。
「Load Default Settings (Y/N)?」というメッセージが表示されます。
- 3 [Y] キーを押し、[Enter] キーを押します。
- 4 設定値を保存して終了します。

Boot Menu の操作方法

Boot Menu を使用する

- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 「CELSIUS」ロゴが表示されている間に [F12] キーを押します。
Boot Menu 画面が表示されます。
- 3 [F12] キーを使用して起動するデバイスを選択します。
- 4 [Enter] キーを押します。
選択したデバイスからシステムを起動します。選択したデバイスが接続されていない、またはブートセクタが見つからない場合はスキップします。



ポイント

Boot Menu 画面から抜ける場合は [F4] キーを押してください。

3 CMOS Setup ユーティリティのメニューと項目の詳細

CMOS Setup ユーティリティは、13 のメニューから構成されています。各設定項目は、これらのメニューの下に分類されています。
各メニューおよび項目の詳細は、次の節以降を参照してください。

Product Information

本ワークステーションの製品情報を表示します。

Standard CMOS Features

本ワークステーションの、日時、ハードディスク、フロッピーディスクなどに関する基本的な設定を行います。

Advanced Boot Options

起動ドライブの選択など、本ワークステーション起動時の各種設定を行います。

Advanced Chipset Features

メモリに関する設定を行います。

Integrated Peripherals

システムボード上の入出力装置に関する設定を行います。

Power Management Setup

省電力モードに関する設定を行います。

PnP/PCI Configurations

システムリソースに関する設定を行います。

Frequency Control

CPU に関する情報を表示します。

Load Default Setting

工場出荷時の設定に戻します。

Set Supervisor Password

システム管理者用のパスワードを設定します。

Set User Password

一般利用者用パスワードを設定します。

Save & Exit Setup

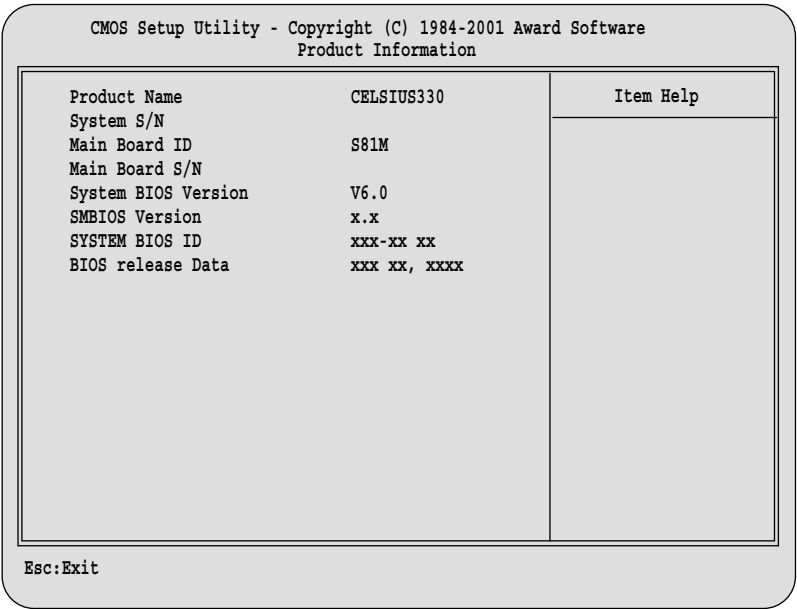
現在の設定値を保存してから、CMOS Setup ユーティリティを終了します。

Exit Without Saving

現在の設定値を保存せずに、CMOS Setup ユーティリティを終了します。

Product Information メニュー

本ワークステーションの製品情報を表示します。



Product Name

製品名を表示します。

System S/N

シリアルナンバーを表示します。本ワークステーションでは無効な情報です。

Main Board ID

システムボードの ID を表示します。本ワークステーションでは無効な情報です。

Main Board S/N

システムボードのシリアルナンバーを表示します。本ワークステーションでは無効な情報です。

System BIOS Version

BIOS の版数を表示します。

SMBIOS Version

SMBIOS の版数を表示します。

System BIOS ID

BIOS の版数を表示します。

BIOS Release Date

BIOS の作成日を表示します。

Standard CMOS Features メニュー

本ワークステーションの、日時、ハードディスク、フロッピーディスクなどに関する基本的な設定を行います。

CMOS Setup Utility - Copyright (C) 1984-2001 Award Software Standard CMOS Features		
Date (mm:dd:yy)	xxx, mm dd yyyy	Item Help
Time (hh:mm:ss)	hh : mm : ss	
▶ IDE Primary Master	[xxxxx]	
▶ IDE Primary Slave	[xxxxx]	
▶ IDE Secondary Master	[xxxxx]	
▶ IDE Secondary Slave	[xxxxx]	
Drive A	[1.44M, 3.5 in.]	
Video	[EGA/VGA]	
Halt On	[All , But Keyboard]	
Base Memory	640K	
Extended Memory	xxxxxxxK	
Total Memory	xxxxxxxK	

↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save Esc:Exit F1:General Help
F5:Previous Values F7:Default Settings

Date

本ワークステーションの日付を示します。日付は " 曜日 , 月 日 年 " の形式で表示されます。

現在の日付の設定を変更するには、キーボードから Date に新しい日付の数値を入力します。[Enter] キーを押すと、月・日・年の順にカーソルが移動します。

Time

本ワークステーションの時刻を示します。時刻は " 時 : 分 : 秒 " の形式で表示されます。

現在の時刻の設定を変更するには、キーボードから Time に新しい時刻の数値を入力します。[Enter] キーを押すと、時・分・秒の順にカーソルが移動します。



ポイント

- Date および Time は一度合わせれば、電源を入れるたびに設定し直す必要はありません。
- Date および Time で入力した数値を修正するときは、[Back Space] キーを押して再度入力してください。

IDE Primary Channel Master

IDE Primary Channel Slave

IDE Secondary Channel Master

IDE Secondary Channel Slave

各 IDE 規格のドライブ装置の各種設定を行います。

サブメニューを使って、プライマリ IDE コネクタとセカンダリ IDE コネクタに取り付けたマスタとスレーブのハードディスクなどのタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。

カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、サブメニューの画面が表示されます。

CMOS Setup Utility - Copyright (C) 1984-2001 Award Software		
IDE Primary Master		
IDE HDD Auto-Detection	[Press Enter]	Item Help
IDE Primary Master	[AUTO]	
Access Mode	[AUTO]	
Capacity	xxxxMB	
Cylinder	xxxx	
Head	xxxx	
Precomp	xxxx	
Landing Zone	xxxx	
Sector	xxxx	

↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save Esc:Exit F1:General Help
F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults



ポイント

不適切な転送モードに設定した場合、システムが正しく起動しない場合があります。初期値から変更しないでください。

IDE HDD Auto-Detection

この項目を選択して [Enter] キーを押すと、本ワークステーションが自動的に IDE ドライブのタイプを認識します。

IDE Primary Master

IDE デバイスのタイプを設定します。

- Auto (初期値)
本ワークステーションが IDE デバイスのタイプを自動的に認識します。IDE デバイスの各種設定を自分で行わない場合に選択します。
- None
IDE デバイスを使わない場合に選択します。
- Manual
IDE デバイスのタイプを手動で設定します。



ポイント

通常は Auto の設定でお使いください。

Access Mode

IDE ドライブのアクセスモードを設定します。

この項目は、IDE Primary Master/IDE Primary Slave/IDE Secondary Master/IDE Secondary Slave を Auto または Manual に設定したときにのみ設定が可能となります。

- CHS
CHS 方式を使用します。
- LBA
LBA 方式を使用します。
- Large
Large 方式を使用します。
- Auto (初期値)
アクセスモードを自動設定します。



ポイント

通常は Auto の設定でお使いください。

Capacity, Cylinder, Head, Precomp, Landing Zone, Sector

本ワークステーションが検出したハードディスクの最大容量 / シリンダ数 / ヘッド数 / 書き込み補修シリンダ番号 / HDD ヘッド退避シリンダ位置 / セクタ数を表示します。

また、Access Mode を LBA に設定したときにのみ設定が可能となります。

Drive A

フロッピーディスクドライブのタイプ（記録密度とドライブサイズ）を設定します。

- None
- 360KB 5.25-inch
- 1.2MB 5.25-inch
- 720KB 3.5-inch
- 1.44MB 3.5-inch（初期値）
- 2.88MB 3.5-inch



ポイント

本ワークステーションでは1.44MB 3.5-inchフロッピーディスクドライブが搭載されています。1.44MB 3.5-inch 以外の設定では正常に動作しません。

Video

ビデオカードのタイプを設定します。

- EGA/VGA（初期値）
- CGA 40
- CGA 80
- MONO

Halt On

どのような種類のエラーが発生したときにシステムを停止するかを設定します。

- All Errors
すべてのエラーに対してシステムを停止します。
- No Errors
エラーが発生しても、システムを停止しません。
- All , But Keyboard（初期値）
キーボード以外のエラー発生時にシステムを停止します。
- All , But Diskette
フロッピーディスク以外のエラー発生時にシステムを停止します。
- All , But Disk/Key
キーボードおよびフロッピーディスク以外のエラー発生時にシステムを停止します。

Base Memory

1MB 以下の使用可能なベースメモリサイズが表示されます。

Extended Memory

1MB 以上のメモリサイズが表示されます。

Total Memory

総メモリサイズが表示されます。

Advanced BIOS Features メニュー

本ワークステーション起動時の各種設定を行います。

CMOS Setup Utility - Copyright (C) 1984-2001 Award Software Advanced BIOS Features		
Virus Warning	[Disabled]	Item Help
Quick Power On Self Test	[Enabled]	
Silent Boot	[Enabled]	
Configuration Table	[Disabled]	
Hard Disk Boot Priority	[Press Enter]	
First Boot Device	[Floppy]	
Second Boot Device	[Hard Disk]	
Third Boot Device	[CDROM]	
Boot Other Device	[Enabled]	
Security Option	[Setup]	
DMI Event Log	[Enabled]	
Clear All DMI Event Log	[No]	
View DMI Event Log	[Enter]	
Mark DMI Evnet as Read	[Enter]	
Event Log Capacity	xxxxx	
Event Log Validity	xxxxx	

↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save Esc:Exit F1:General Help
F5:Previous Values F7:Optimized Defaults

Virus Warning

ハードディスクの起動セクタをウィルスから保護するため、起動セクタへの書き込みを停止するかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
起動セクタへの書き込みを禁止しません。
- Enabled
起動セクタへの書き込みを禁止します。



ポイント

OS をインストールする場合は、Disabled に設定してください。

Quick Power On Self Test

本ワークステーション起動時または再起動時に、自己診断 (POST) を行うかどうかを設定します。

- Disabled
起動時または再起動時に POST を行います。
- Enabled (初期値)
起動時または再起動時に POST を行いません。

Silent Boot

本ワークステーション起動時または再起動時に、自己診断（POST）画面を表示するかどうかを設定します。

- Disabled
起動時または再起動時に「CELSIUS」ロゴを表示します。
- Enabled（初期値）
起動時または再起動時に自己診断（POST）画面を表示します。

Configuration Table

システム構成情報画面を表示するかどうかを設定します。画面は OS 起動直前に表示されます。

- Disabled（初期値）
システム情報を表示しません。
- Enabled
システム情報を表示します。

Hard Disk Boot Priority

システムを起動するハードディスクの優先順位を設定します。

[] [] キーを使って優先順位を変更したいデバイスを選択し、[+] キーを押すと上側に、[-] キーを押すと下側にそれぞれ項目が移動して優先順位が変更されます。

- 1.Pri.M xxxxx（初期値）
プライマリマスタに接続されているハードディスクから起動します。
- 2.Bootable Add-in Cards（初期値）
拡張カードに接続されているハードディスクから起動します。

First Boot Device (初期値 : Floppy)

Second Boot Device (初期値 : CD-ROM)

Third Boot Device (初期値 : HDD)

起動ドライブの優先順位を設定します。

優先順位は First Boot Device、Second Boot Device、Third Boot Device の順です。

- Floppy
フロッピーディスクドライブから起動します。
- LS120
LS-120 から起動します (本ワークステーションではサポートしておりません)。
- Hard Disk
IDE ハードディスクドライブから起動します。
- CDROM
CD-ROM ドライブから起動します。
- ZIP100
ZIP から起動します (本ワークステーションではサポートしておりません)。
- LAN
ネットワークサーバから起動します。
- Disabled
無効にします。



ポイント

- CD-ROM からの起動にはブート可能な OS の入った CD-ROM が必要となります。
一度電源を入れたあと、CD-ROM ドライブに CD-ROM をセットしてから再起動してください。
- ネットワークサーバから起動するためには、「Wired for Management Baseline Version 2.0」に準拠したインストレーションサーバシステムが必要となります。

Boot Other Device

本ワークステーションを、通常の起動順序以外のドライブから起動できるようにするかどうかが設定します。

- Disabled
起動できません。
- Enabled (初期値)
起動できます。

Security Option

パスワードの入力を、BIOS 設定時のみ要求するか、システム起動時に毎回要求するかを設定します。

- Setup (初期値)
BIOS 設定時のみ要求します。
- System
システム起動時に毎回要求します。

DMI Event Log

DMI イベントログを記録するかどうかを設定します。

- Disabled
DMI イベントログを記録しません。
- Enabled (初期値)
DMI イベントログを記録します。

Clear All DMI Event Log

再起動時にイベントログの内容を消去するかどうかを設定します。

- No (初期値)
イベントログを消去しません。
- Yes
イベントログを次回再起動時に消去します。再起動すると設定は No になります。

View DMI Event Log

[Enter] キーを押すと、イベントログの詳細を表示します。

Mark DMI Event Log

[Enter] キーを押すと、記録されているイベントログをすべて既読にします。
[Enter] キーを押す以前に記録されたすべてのイベントログは、表示されなくなります。

Event Log Capacity

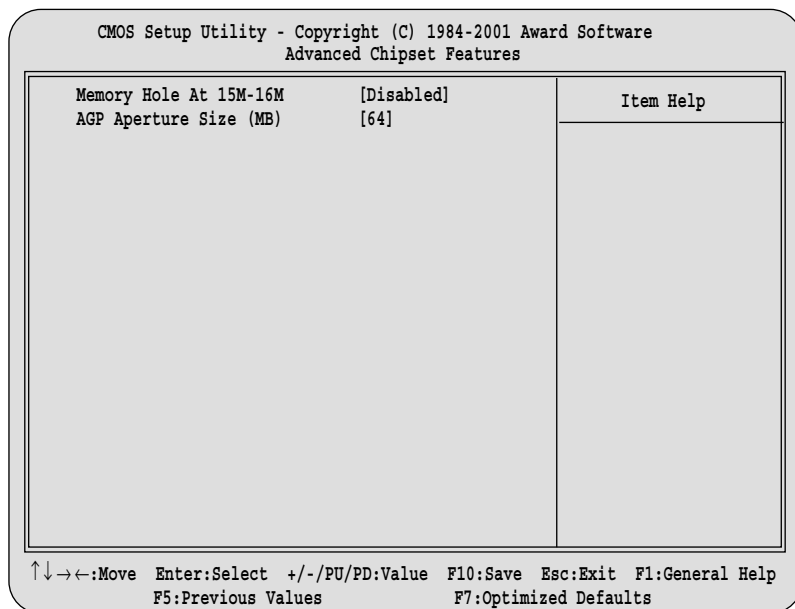
イベントログを保存可能かどうかを表示します。

Event Log Validity

イベントログの内容が有効かどうかを表示します。

Advanced Chipset Features メニュー

メモリに関する詳細を設定します。



Memory Hole At 15M-16M

本ワークステーションのメモリエリア 15MB から 16MB 間に拡張カードのメモリエリアを割り当てかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
15MB-16MB 間の 1MB を拡張カードに割り当てます。
- Enabled
15MB-16MB 間の 1MB を本ワークステーションに割り当てます。

AGP Aperture Size (MB)

AGP ビデオコントローラが使うアパーチャサイズを設定します。

- 4 / 8 / 16 / 32 / 64 (初期値) / 128 / 256

Integrated Peripherals メニュー

システムボード上の入出力装置に関する設定を行います。

CMOS Setup Utility - Copyright (C) 1984-2001 Award Software Integrated Peripherals		
On-Chip Primary PCI IDE	[Enabled]	Item Help
IDE Primary Master PIO	[Auto]	
IDE Primary Slave PIO	[Auto]	
IDE Primary Master UDMA	[Auto]	
IDE Primary Slave UDMA	[Auto]	
On-Chip Secondary PCI IDE	[Enabled]	
IDE Secondary Master PIO	[Auto]	
IDE Secondary Slave PIO	[Auto]	
IDE Secondary Master UDMA	[Auto]	
IDE Secondary Slave UDMA	[Auto]	
USB Controller	[Enabled]	
USB Keyboard Support	[Disabled]	
USB Mouse Support	[Disabled]	
AC97 Audio	[Auto]	
Init Display First	[AGP]	
IDE HDD Block Mode	[Enabled]	
Onboard FDC Controller	[Enabled]	
Onboard Serial Port 1	[3F8/IRQ4]	
Onboard Serial Port 2	[2F8/IRQ3]	

↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save Esc:Exit F1:General Help
F5:Previous Values F7:Optimized Defaults

3

BIOS 設定

On-Chip Primary PCI IDE

プライマリ IDE コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled
プライマリ IDE コントローラを無効にします。
- Enabled (初期値)
プライマリ IDE コントローラを有効にします。

IDE Primary Master PIO

IDE Primary Slave PIO

デバイスホスト間のデータ転送モード (高速 PIO) を設定します。

- Disabled
データ転送モード (高速 PIO) を無効にします。
- AUTO (初期値)
データ転送モード (高速 PIO) を自動的に最適なモードに設定します。
- Mode 0 / Mode 1 / Mode 2 / Mode 3 / Mode 4
各データ転送モードに設定します。数値が大きくなるほどデータ転送速度が上がります。

IDE Primary Master UDMA

IDE Primary Slave UDMA

デバイスホスト間のデータ転送モード (Ultra DMA) を設定します。

- Disabled
データ転送モード (Ultra DMA) を無効にします。
- AUTO (初期値)
データ転送モード (Ultra DMA) を有効にします。

On-Chip Secondary PCI IDE

セカンダリ IDE コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled
セカンダリ IDE コントローラを無効にします。
- Enabled (初期値)
セカンダリ IDE コントローラを有効にします。

IDE Secondary Master PIO

IDE Secondary Slave PIO

デバイスホスト間のデータ転送モード (高速 PIO) を設定します。

- Disabled
データ転送モード (高速 PIO) を無効にします。
- AUTO (初期値)
データ転送モード (高速 PIO) を自動的に最適なモードに設定します。
- Mode 0 / Mode 1 / Mode 2 / Mode 3 / Mode 4
各データ転送モードに設定します。数値が大きくなるほどデータ転送速度が上がります。

IDE Secondary Master UDMA

IDE Secondary Slave UDMA

デバイスホスト間のデータ転送モード (Ultra DMA) を設定します。

- Disabled
データ転送モード (Ultra DMA) を無効にします。
- AUTO (初期値)
データ転送モード (Ultra DMA) を有効にします。

USB Controller

USB コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled
USB コントローラを無効にします。
- Enabled (初期値)
USB コントローラを有効にします。

**ポイント**

USB 機器を接続する場合、Enabled に設定したままでお使いください。

USB Keyboard Support

Windows NT など USB をサポートしていない OS で USB キーボードを使用できるようにするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
USB キーボードを使用できないようにします。
- Enabled
USB キーボードを使用できるようにします。

**ポイント**

本ワークステーションでは Windows NT の場合、USB キーボードをサポートしておりません。

USB Mouse Support

Windows NT など USB をサポートしていない OS で USB マウスを使用できるようにするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
USB マウスを使用できないようにします。
- Enabled
USB マウスを使用できるようにします。

**ポイント**

本ワークステーションでは Windows NT の場合、USB マウスをサポートしておりません。

AC97 Audio

システムボード上のオーディオコントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Auto (初期値)
オーディオコントローラを有効にします。
- Disabled
オーディオコントローラを無効にします。

Init Display First

PCI のビデオカードを増設した場合、PCI カードと AGP カードのどちらを使うかを設定します。

- PCI Slot
PCI カードを使います。PCI のビデオカードを増設していない場合は AGP カードを使います。
- AGP (初期値)
AGP カードを使います。



ポイント

マルチモニタ機能をお使いの場合は、AGP に設定してください。

IDE HDD Block Mode

IDE ハードディスクでブロック転送 (データを複数セクタ分まとめて転送すること) を行うかどうかを設定します。

- Disabled
ブロック転送を行いません。
- Enabled (初期値)
ブロック転送を行います。

Onboard FDC Controller

フロッピーディスクコントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled
フロッピーディスクコントローラを無効にします。
- Enabled (初期値)
フロッピーディスクコントローラを有効にします。



ポイント

Disabled に設定する場合は、「Standard CMOS Features」 - 「Drive A」を None に設定してください。

Onboard Serial Port 1

シリアルポート 1 の I/O アドレスと割り込み要求を設定します。

- Disabled
シリアルポート 1 を無効にします。
- 3F8h/IRQ4 (初期値)
- 2F8h/IRQ3
- 3E8/IRQ4
- 2E8/IRQ3
- Auto
I/O アドレスと割り込み要求を自動的に設定します。



ポイント

- Disabled に設定すると、デバイスマネージャから見えなくなります。
- Windows 2000 でリソースを解放するには、デバイスマネージャで無効にしてください。

Onboard Serial Port 2

シリアルポート 2 の I/O アドレスと割り込み要求を設定します。

- Disabled
シリアルポート 2 を無効にします。
- 3F8h/IRQ4
- 2F8h/IRQ3 (初期値)
- 3E8/IRQ4
- 2E8/IRQ3
- Auto
I/O アドレスと割り込み要求を自動的に設定します。



ポイント

- Disabled に設定すると、デバイスマネージャから見えなくなります。
- Windows 2000 でリソースを解放するには、デバイスマネージャで無効にしてください。

Onboard Parallel Port

パラレルポートの I/O アドレスと割り込み要求を設定します。

- Disabled
パラレルポートを無効にします。
- 378/IRQ7 (初期値)
- 278/IRQ5
- 3BC/IRQ7



ポイント

- Disabled に設定すると、デバイスマネージャから見えなくなります。
- Windows 2000 でリソースを解放するには、デバイスマネージャで無効にしてください。

Parallel Port Mode

パラレルポートのデータ転送モードを設定します。

この項目は、Onboard Parallel Port で Disabled 以外が選択されているときに設定できます。

- SPP / EPP1.9+SPP / ECP / EPP1.9+ECP / PRINTER (初期値) / EPP1.7+SPP / EPP1.7+ECP
- 接続する周辺機器に合わせて設定してください。

ECP Mode Use DMA

ECP 規格の周辺装置に DMA 転送を行う場合の DMA チャンネルを設定します。

この項目は、Parallel Port Mode で ECP、EPP1.9+ECP または EPP1.7+ECP が選択されているときに設定できます。

- 1
- 3 (初期値)

Power Management Setup メニュー

省電力モードに関する設定を行います。

CMOS Setup Utility - Copyright (C) 1984-2001 Award Software		
Power Management Setup		
ACPI Suspend Type	[S3(STR)]	Item Help
Run VGABIOS if S3 Resume	[Auto]	
Power Management	[User Define]	
Suspend Mode	[Disabled]	
HDD Power Down	[Disabled]	
Soft-Off by PWR-BTTN	[Instant-Off]	
PWRON After PWE-Fail	[Former-Sts]	
Wake-Up by PCI card	[Disabled]	
Power On by Ring	[Disabled]	
USB KB/Mouse WakeUp From S3(S4)	[Enabled]	
Resume by Alarm	[Disabled]	
× Date(of Month) Alarm	x	
× Time(hh:mm:ss) Alarm	xx:xx:xx	

↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save Esc:Exit F1:General Help
F5:Previous Values F7:Optimized Defaults

ACPI Suspend Type

ACPI 対応の OS のスタンバイ方式を設定します。

- S1(POS)
S1 (標準: Sleep1, PowerOn Suspend) に設定します。システムの状態は保存しますが、CPU を停止させます。
- S3(STR) (初期値)
S3 (高度: Sleep3, Suspend To RAM) に設定します。システムの状態をメモリに保存し、その他の回路を停止させます。



ポイント

Windows 2000 モデルは ACPI モード高度 (S3) に設定されています。

Run VGABIOS if S3 Resume

S3 (高度) のスタンバイ状態から復帰するとき、BIOS がビデオアダプタを初期化するかどうかを設定します。

- Auto (初期値)
自動的に設定します。
- Yes
初期化します。
- No
初期化しません。

Power Management

省電力モードのレベルを設定します。

- User Define (初期値)
省電力モードのレベルを手動で設定します。設定できるパラメータは Suspend Mode と HDD Power Down です。
- Min Saving
最小限の省電力モードに設定します。省電力モードへの移行時間は 1 時間です。
- Max Saving
最大限の省電力モードに設定します。省電力モードへの移行時間は 1 分です。



ポイント

Windows 2000 の場合、本設定は無効になり、OS 側の設定が有効になります。

Suspend Mode

省電力モードに移行し、CPU を停止するまでの時間を設定します。

この項目は、Power Management で User Define を選択した場合に設定できます。

- Disabled (初期値)
省電力モードには移行しません。
- 1 Min/2 Min/4 Min/8 Min/12 Min/20 Min/30 Min/40 Min/1 Hour
省電力モードに移行し、CPU を停止するまでの時間を設定します。



ポイント

Windows 2000 の場合、本設定は無効になり、OS 側の設定が有効になります。

HDD Power Down

ハードディスクへのアクセスがなくなってから、ハードディスクを省電力モードに移行し、モーターを止めるまでの時間を設定します。

この項目は、Power Management で User Define を選択した場合に設定できます。

- Disabled (初期値)
省電力モードに移行しません。
- 1 Min/2 Min/3 Min/4 Min/5 Min/6 Min/7 Min/8 Min/9 Min/10 Min/11 Min/12 Min/13 Min/14 Min/15 Min
省電力モードに移行し、モーターを止めるまでの時間を設定します。



ポイント

Windows 2000 の場合、本設定は無効になり、OS 側の設定が有効になります。

Soft-Off by PWR-BTTN

電源スイッチを押したときに、省電力モードに移行するか、電源が切れるようにするかを設定します。

- Instant-Off (初期値)
電源スイッチを押すと電源が切れます。
- Delay 4 sec
通常状態のときに電源スイッチを押すと省電力モードになり、省電力モードのときに電源スイッチを押すと電源が切れます。
4 秒以上押し続けた場合は、電源が切れます。



ポイント

- Windows NT の場合、Delay 4 sec に設定しないでください。
- Windows 2000 の場合、本設定は無効になり、OS 側の設定が有効になります。

PWRON After PWE-Fail

停電などで電源が切断された場合に、通電再開時の動作を設定します。

- Former Sts (初期値)
電源が切断されたときの状態に戻ります。
- On
電源が入るようにします。
- Off
電源が入らないようにします。



ポイント

- UPS のスケジュール運転を行う場合は Former Sts または On を選択してください。
- Former Sts に設定していて、電源が切れたときの状態がスタンバイ状態または休止状態の場合、通電再開時に電源が入ります。

Wake Up by PCI card

標準状態の LAN が Magic Packet を受信したときに、電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰するかどうかを設定します。

また、PCI カードが PME 信号を発生させた場合に、電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰するかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
Magic Packet の受信または PME 信号の発生により電源を入れたり、スタンバイ状態から復帰したりしません。
- Enabled
Magic Packet の受信または PME 信号の発生により電源を入れたり、スタンバイ状態から復帰したりします。



ポイント

- 本機能は、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切った場合、動作しません。電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切った場合は、再度電源を入れて OS 上から電源を切断してください。
- Wake on LAN で電源を入れる場合は Enabled に設定します。
- Windows 2000 の場合、スタンバイ状態や休止状態から復帰させるには本設定と OS 側の設定が必要です。
- 電源オフからの動作は、OS にかかわらず本設定が有効です。
- 停電などからの復帰後、一度電源を入れるまで、この設定は有効になりません。

Power On by Ring

モデム（シリアルポートに接続のモデム）への着信により電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰するかどうかを設定します。

- Disabled（初期値）
モデムへの着信により電源を入れたり、スタンバイ状態から復帰したりしません。
- Enabled
モデムへの着信により電源を入れたり、スタンバイ状態から復帰したりします。



ポイント

- 本機能は、電源スイッチを4秒以上押して電源を切った場合、動作しません。電源スイッチを4秒以上押して電源を切った場合は、再度電源を入れてOS上から電源を切断してください。
- Enabledに設定した状態で、シリアルポートに接続したモデムの電源を入れたり切ったりすると、モデムの種類によっては、ワークステーション本体の電源が入ったりスタンバイ状態から復帰したりすることがあります。
- Windows 2000の場合、本設定でスタンバイ状態や休止状態から復帰させることはできません。OS側で設定してください。
- 電源オフからの動作は、OSにかかわらず本設定が有効です。
- 停電などからの復帰後、一度電源を入れるまで、この設定は有効になりません。

USB KB/Mouse Wake-Up From S3

USB キーボードおよびマウスにより S3（高度）スタンバイ状態から復帰するかどうかを設定します。

- Disabled
USB キーボードおよびマウスにより S3（高度）スタンバイ状態から復帰しません。
- Enabled（初期値）
USB キーボードおよびマウスにより S3（高度）スタンバイ状態から復帰します。



ポイント

本項目を Enabled に設定してお使いになるときは、デバイスマネージャで USB デバイスの電源管理を設定してください。

Resume by Alarm

Date(of Month) Alarm、Date(hh:mm:ss) Alarm で設定した時刻に電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰するかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
設定した時刻に電源を入れたりスタンバイ状態から復帰したりしません。
- Enabled
設定した時刻に電源を入れたりスタンバイ状態から復帰したりします。

Date(of Month) Alarm

ウェイクアップする日付 (0 ~ 31 日) を設定します。この項目を選択して [Enter] キーを押すと、日付を入力できます。

この項目は、Resume by Alarm で Enabled を選択した場合に設定できます。

Date(hh:mm:ss) Alarm

ウェイクアップする時刻を設定します。この項目を選択して [Enter] キーを押すと、時刻を入力できます。

この項目は、Resume by Alarm で Enabled を選択した場合に設定できます。



ポイント

- 本機能は、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切った場合、動作しません。電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切った場合は、再度電源を入れて OS 上から電源を切断してください。
- Windows 2000 の場合、本設定でスタンバイ状態や休止状態から復帰させることはできません。OS 側で設定してください。
- 電源オフからの動作は、OS にかかわらず本設定が有効です。
- 停電などからの復帰後、一度電源を入れるまで、この設定は有効になりません。

PnP/PCI Configurations メニュー

システムリソースに関する設定を行います。

CMOS Setup Utility - Copyright (C) 1984-2001 Award Software	
PnP/PCI Configurations	
Reset Configuration Data	[Disabled]
Resources Controlled By	[Auto(ESCD)]
× IRQ Resources	Press Enter
PCI/VGA Palette Snoop	[Disabled]

↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save Esc:Exit F1:General Help
F5:Previous Values F7:Optimized Defaults

Reset Configuration Data

ESCD (Extended System Configuration Data) に保存されている Plug & Play の情報を、起動時にリセットするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
リセットしません。
- Enabled
リセットします。

Resources Controlled By

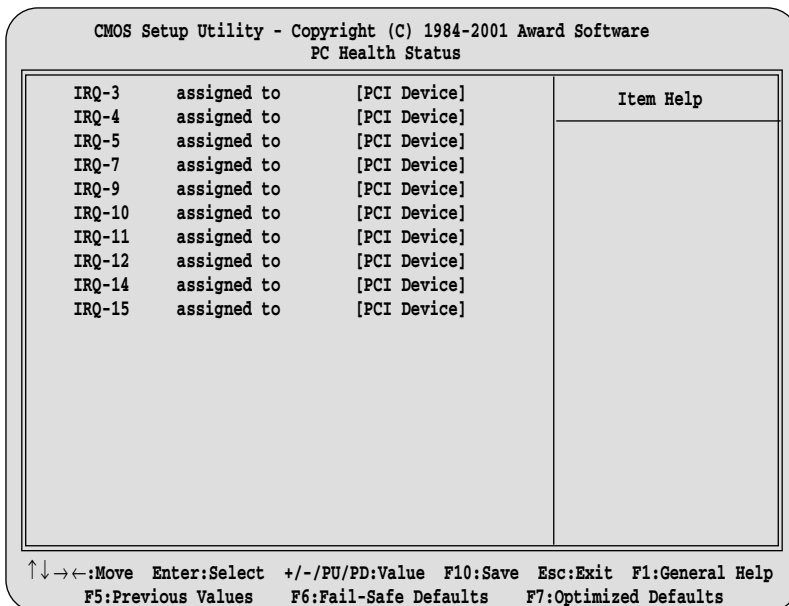
各装置に割り当てる割り込み要求や DMA、I/O アドレスなどのリソースを、Plug & Play により自動的に割り当てるか手動で割り当てるかを選択します。

- Auto(ESCD) (初期値)
自動的に割り当てます。
- Manual
手動で割り当てます。

IRQ Resources

各装置に割り当てる割り込み要求を設定します。

この項目は、Resources Controlled By で Manual が選択されている場合に設定できます。この項目にカーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、サブメニューが表示されます。



IRQ-3/IRQ-4/IRQ-5/IRQ-7/IRQ-9/IRQ-10/IRQ-11/IRQ-12/IRQ-14/IRQ-15
assigned to

各割り込み要求を割り当てます。

- PCI Device (初期値)
選択した割り込み要求を PCI スロットに接続された機器に割り当てます。
- Reserved
割り込み要求を割り当てません。

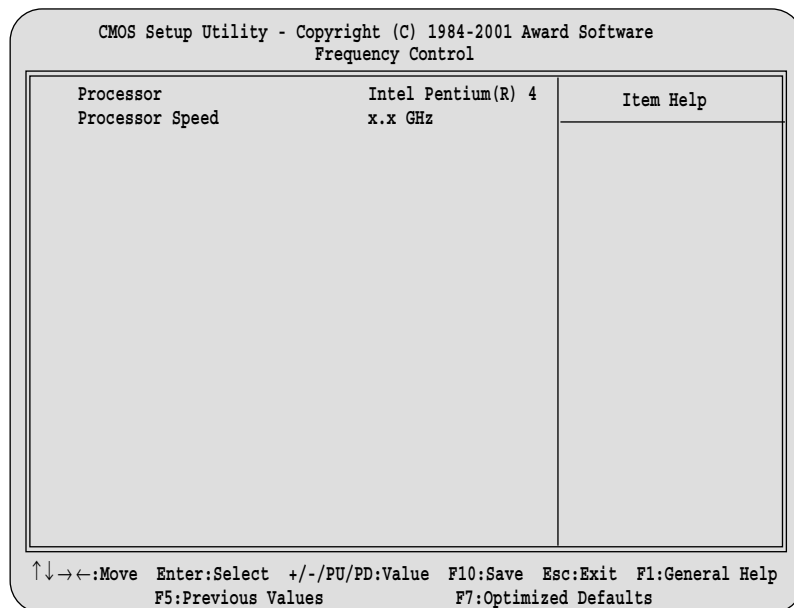
PCI/VGA Palette Snoop

ワークステーション本体のビデオコントローラのパレット情報 (画面に表示する色を定義する情報) を、ビデオカードのビデオコントローラからも参照できるようにするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
パレット情報を参照しません。
- Enabled
パレット情報を参照します。

Frequency Control メニュー

CPU の情報表示を行います。



Processor

CPU の名称を表示します。

Processor Speed

CPU のクロック数を表示します。

Load Default Settings

工場出荷時の設定に戻します。

Set Supervisor Password

システム管理者用パスワードを設定します。

Set User Password

一般利用者用パスワードを設定します。

Save & Exit Setup

現在の設定を保存してから、CMOS Setup ユーティリティを終了します。[Enter] キーを押すと、終了確認のメッセージが表示されます。

[Y] キーを押し、[Enter] キーを押すと終了します。

[N] キーを押し、[Enter] キーを押すと Main メニューに戻ります。

Exit Without Saving

現在の設定を保存せずに、CMOS Setup ユーティリティを終了します。[Enter] キーを押すと、終了確認のメッセージが表示されます。

[Y] キーを押し、[Enter] キーを押すと終了します。

[N] キーを押し、[Enter] キーを押すと Main メニューに戻ります。

4 BIOS のパスワード機能を使う

本ワークステーションでは、特定の人だけが起動や BIOS 設定を行えるように、パスワードを設定することができます。
ここでは、パスワードの設定方法や変更方法などについて説明します。

パスワードの種類

本ワークステーションで設定できるパスワードは次の 2 つです。

- 管理者用パスワード：Set Supervisor Password
システム管理者用のパスワードです。
- ユーザー用パスワード：Set User Password
一般利用者用のパスワードです。
ユーザー用パスワードで BIOS 設定を起動すると、設定できる項目が以下の項目に制限されます。
 - ユーザー用パスワード

パスワードを設定する

管理者用パスワード、ユーザー用パスワードを設定する方法を説明します。



ポイント

ユーザー用パスワードを設定するときは管理者用パスワードを設定してください。
ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードが設定されているときにのみ設定できます。

- 1 CMOS Setup ユーティリティを開始します。
- 2 [F1] [F2] キーを使用して、「Set Supervisor Password」または「Set User Password」を選択し、[Enter] キーを押します。
「Enter Password:」というメッセージが表示されます。
- 3 パスワードを入力します。
入力できる文字はアルファベットと数字です。最大 8 文字までなら何文字でもかまいません。
入力した文字は表示されず、代わりに「*」が表示されます。



ポイント

入力したパスワードは忘れないようにしてください。

- 4 [Enter] キーを押します。
パスワードを確認するためのウィンドウが表示されます。
パスワードの設定を中止するときは、続けて [Enter] キーを 2 回押します。

- 5 手順3で入力したパスワードをもう一度入力し、[Enter] キーを押します。
再入力したパスワードが、手順3で入力したものと違っていた場合は、再び手順3と同じウィンドウが表示されます。パスワードを入力し直してください。
- 6 続いてもう一方のパスワードも設定する場合は、手順2～5を繰り返します。
- 7 設定値を保存して CMOS Setup ユーティリティを終了します。

パスワード設定後のワークステーションの起動

パスワードを設定すると、次に電源を入れたとき、または CMOS Setup ユーティリティを開始するときに、パスワードの入力を要求されます。
パスワードを入力し、[Enter] キーを押してください。



ポイント

設定したパスワードと違うパスワードを入力すると、「Invalid Password! Press Any Key to Continue.」というメッセージが表示されます。その場合は [Enter] キーを押し、正しいパスワードを入力してください。
誤ったパスワードを3回入力すると、「System Halted!!」というメッセージが表示され、ピープ音が鳴ったままになります。その場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けてワークステーションの電源を切ってから10秒ほど待って、もう一度電源を入れます。そのあと、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを変更 / 削除する

- 1 本ワークステーションの電源を入れるか、または再起動します。
- 2 「CELSIUS」ロゴが表示されている間に、[Ctrl]+[Alt]+[Esc] キーを押します。
- 3 設定したパスワードを入力し、CMOS Setup ユーティリティを開始します。
管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方を設定している場合、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップを起動すると、管理者用パスワードは変更 / 削除できません。
- 4 [F10] キーを使用して「Set Supervisor Password」または「Set User Password」のどちらか変更 / 削除したいほうを選び、[Enter] キーを押します。

- 5 ここでは、パスワードを変更するか削除するかによって、操作手順が異なります。
- パスワードを変更する場合
新しいパスワードを入力し、[Enter] キーを押します。パスワードが変更されます。
 - パスワードを削除する場合
何も入力しないで [Enter] キーを 2 回押します。パスワードが削除されます。
- 6 設定値を保存して、CMOS Setup ユーティリティを終了します。

パスワードを忘れてしまったときには

設定したパスワードを忘れてしまい、ワークステーションの起動や BIOS 設定 (CMOS Setup) ができなくなったら、次の手順に従ってください。
パスワードが消去され、ワークステーションの起動や CMOS Setup ができるようになります。

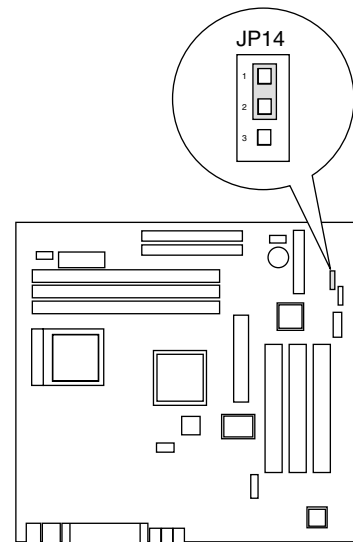


感 電



- ジャンパセッティングを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。
- 電源を切った直後は、ワークステーション内部の装置が熱くなっています。電源を切ったあと、10 分ほど待ってから作業を始めてください。やけどの原因となります。

- 1 本ワークステーションの電源を切り、サイドカバーを取り外します。
- 2 システムボード上のジャンプスイッチ JP14 を、2-3 から 1-2 に変更します。



- 3 10 秒ほど待ってから、システムボード上のジャンプスイッチ JP14 を、1-2 から 2-3 に変更します。
- 4 サイドカバーを取り付け、電源を入れます。
- 5 CMOS Setup ユーティリティで、設定値をご購入時の状態に戻します。

4 困ったときに

この章は、本ワークステーションを使用していて思うように動かないときなどに、どうすればよいかを説明しています。

Contents

1 エラーメッセージ	102
2 こんなときには	104
3 どうしても解決できないときは	106

1 エラーメッセージ

ここでは、本ワークステーションが表示するエラーメッセージの対処方法について説明しています。必要に応じてお読みください。

ビープ音をともなうエラー

本ワークステーションの起動時にビープ音が鳴った場合はビープ音を確認し、処置を行ってください。
処置を行ってもまだビープ音が鳴る場合は、本ワークステーションが故障している可能性があります。担当営業員、または担当保守員に連絡してください。
次にビープ音を示します。

ビープ音	意味と対処方法
Long-Short-Short	ビデオカードの初期化（認識）に失敗しました。 ビデオカードが正しく取り付けられているか確認してください。 正しく取り付けられていても同じビープ音が鳴る場合は、担当営業員、または担当保守員に連絡してください。
その他	メモリにエラーが発生しました。 メモリが正しく取り付けられているか確認してください。 正しく取り付けられていても同じビープ音が鳴る場合は、担当営業員、または担当保守員に連絡してください。

エラーメッセージ

本ワークステーションの起動時にエラーメッセージが表示された場合は、エラーメッセージを確認し、処置を行ってください。
処置を行ってもまだエラーメッセージが表示される場合は、本ワークステーションが故障している可能性があります。担当営業員、または担当保守員へ連絡してください。
次にエラーメッセージを示します。

エラーメッセージ	意味と対処方法
CMOS Battery failed	バッテリーの交換が必要です。担当営業員、または担当保守員に連絡してください。
CMOS checksum error - Defaults loaded	BIOS 設定の「ご購入時の状態に戻す」を実行してください。その後も同じエラーメッセージが表示される場合は、バッテリーの交換が必要です。担当営業員、または担当保守員に連絡してください。

エラーメッセージ	意味と対処方法
DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER	フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出して、[Enter] キーを押してください。
DISPLAY SWITCH IS SET INCORRECTLY	担当営業員、または担当保守員に連絡してください。
HARD DISK INSTALL FAILURE	CMOS Setup ユーティリティを開始して、ハードディスクドライブの設定が正しく行われているかを確認してください。
floppy disk(s) fail(XX)	フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。正しく接続されているときは、CMOS Setup ユーティリティを開始して、フロッピーディスクドライブの種類が正しく設定されているかを確認してください。
[Primary/Secondary][master/slave] hard disk fail	CMOS Setup ユーティリティを開始して、ハードディスクドライブの設定が正しく行われているかを確認してください。
Keyboard is locked out - Unlock the key.	キーボードが正しく接続されているかを確認してください。
Keyboard error or no keyboard present.	キーボードが正しく接続されているかを確認してください。
BIOS ROM checksum error - System halted.	担当営業員、または担当保守員に連絡してください。
Memory test fail.	メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。正しく取り付けられている場合は、担当営業員、または担当保守員に連絡してください。

2 こんなときには

ここでは、各機能に関するトラブル情報について記載しています。必要に応じてお読みください。

- アクセス表示ランプがつかない
本ワークステーションが故障している可能性があります。担当営業員または担当保守員にご相談ください。
- 画面に何も表示されない
次のことを確認してください。
 - ディスプレイの電源が切れていませんか。
電源スイッチを押してください。
 - 省電力モードが設定されていませんか。
マウスを動かすか、どれかキーを押してください。
電源ランプがオレンジ色に点灯している場合は、スタンバイ状態です。電源スイッチを押してください。
 - ディスプレイのケーブルは、正しく接続されていますか。「第1章 はじめに」の「3 接続」(33 ページ)を参照してディスプレイのケーブルを正しく接続してください。
 - ディスプレイの電源ケーブルは、コンセントに接続されていますか。「第1章 はじめに」の「3 接続」(33 ページ)を参照して電源ケーブルを正しく接続してください。



感 電



ケーブルは、必ず電源を切ってから接続し直してください。
感電の原因となります。

- ディスプレイのブライトネス/コントラストボリュームは、正しく調節されていますか。ブライトネス/コントラストボリュームで画面を調節してください。
- 画面が揺れる
近くにテレビなどの強い磁界が発生するものはありませんか。強い磁界が発生するものは、ディスプレイから離して置いてください。
- 画面の両サイドが欠ける
使用するディスプレイの調整ボタンで、水平画面サイズを調整してください。

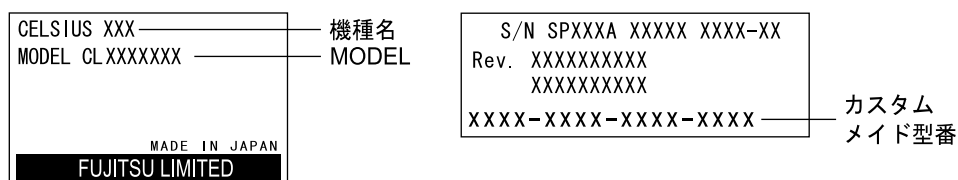
- フロッピーディスクの読み込み、書き込みができない
次のことを確認してください。
 - フロッピーディスクドライブのヘッドが汚れていませんか。クリーニングフロッピーディスクでヘッドの汚れを落としてください(「付録3 お手入れ」の「フロッピーディスクドライブのクリーニング」(119 ページ) 参照)。
 - フロッピーディスクが書き込み禁止になっていませんか。フロッピーディスクのライトプロテクトノッチを書き込み可能な位置にしてください。
- 電源が入らない、前面にある電源ランプがつかない
電源ケーブルは、コンセントに接続されていますか。確認してください。
- CD-ROM ドライブから、データの読み込みができない。
次のことを確認してください。
 - CD をトレイの中央に正しくセットしていますか。CD のレーベル面を上にして、セットし直してください。
 - CD が表裏逆に入っていませんか。CD のレーベル面を上にして、正しくセットしてください。
 - CD が汚れていたり、結露または水滴がついていたりしていませんか。乾いた柔らかい布で中央から外側に向かって拭いてください。
 - CD に傷がついていたり、極端にそっていたりしていませんか。そのような場合には、CD を交換してください。
 - 規格外の CD を使用していませんか。規格に合った CD を使用してください。
- キーボードから入力した文字が表示されない
キーボードは正しく接続されていますか。「第1章 はじめに」の「3 接続」(33 ページ) を参照し、確認してください。
- マウスカーソルが動かない
マウスは正しく接続されていますか。「第1章 はじめに」の「3 接続」(33 ページ) を参照し、確認してください。
- マウスの中ボタンが動作しない
標準添付されている3ボタンマウスの中ボタンは、3ボタン対応アプリケーションを使用しているときにのみ動作します。通常は中ボタンは機能しません。
- ネットワークに接続できない
次のことを確認してください。
 - ネットワークケーブルが正しく接続されていますか。「第1章 はじめに」の「3 接続」(33 ページ) を参照し、確認してください。
 - 100Mbps で通信している場合、カテゴリ5 の UTP ケーブルをお使いですか。カテゴリ5 の UTP ケーブルをお使いください。
 - ハブユニットの ACT/LNK ランプが点灯していますか。ハブユニットを確認してください。
 - TCP/IP プロトコルをお使いの場合、Ping コマンドを使って接続できているか確認してください。

3 どうしても解決できないときは

どうしても原因がわからないときや、元の状態に戻せないときは、担当営業員または担当保守員へ連絡してください。なお、お問い合わせ前に機種名 / MODEL / カスタムメイド型番を確認してください。

機種名 / MODEL / カスタムメイド型番の表記場所

ワークステーション本体背面のラベルに記載されています。



連絡先

こんなときには	こちらへ
添付品の不備	担当営業員または担当保守員
故障かなと思われたとき	担当営業員または担当保守員
技術的なご質問・ご相談	担当営業員または担当保守員

情報サービス

また、次の方法で情報サービスを行っております。

富士通ワークステーション FAX サービス（カタログ、Q&A 情報）	043-299-3642（千葉） 06-6949-3270（大阪）
インターネット （製品の技術情報）	富士通オープンシステム情報ページ PRIMESERVER GRANPOWER WORLD http://primeserver.fujitsu.com/

お問い合わせ前の確認シート

お客様の環境

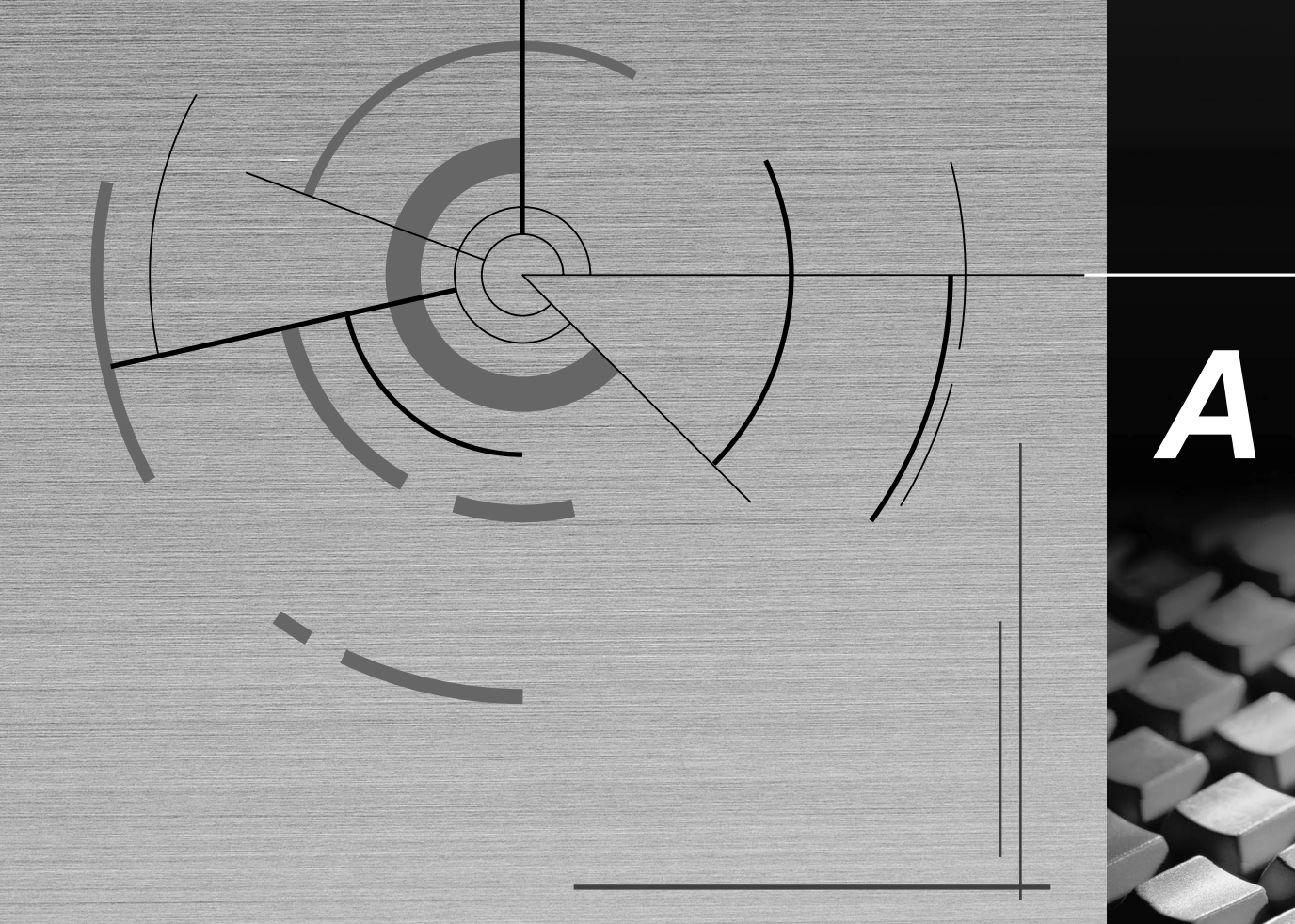
お使いのワーク ステーションの 機種は？	機種名：CELSIUS		MODEL：
	カスタムメイド型番：		
	購入日：		
メモリの容量は？	本体標準：MB		
	増設：MB	[メーカー：] [型番：]	
増設した 周辺機器は？	種類	型番号	メーカー
お使いの ソフトウェアは？	ソフトウェア名	バージョン / レベル	メーカー

トラブル状況

トラブルの内容は？	
何をしているときに 起こりましたか？	
エラーメッセージは 表示されましたか？ その内容は何ですか？	
以前は問題なく 動作していましたか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以前は動作した ・ 今回初めて試した ・ 以前から動作しない

4

困ったときに



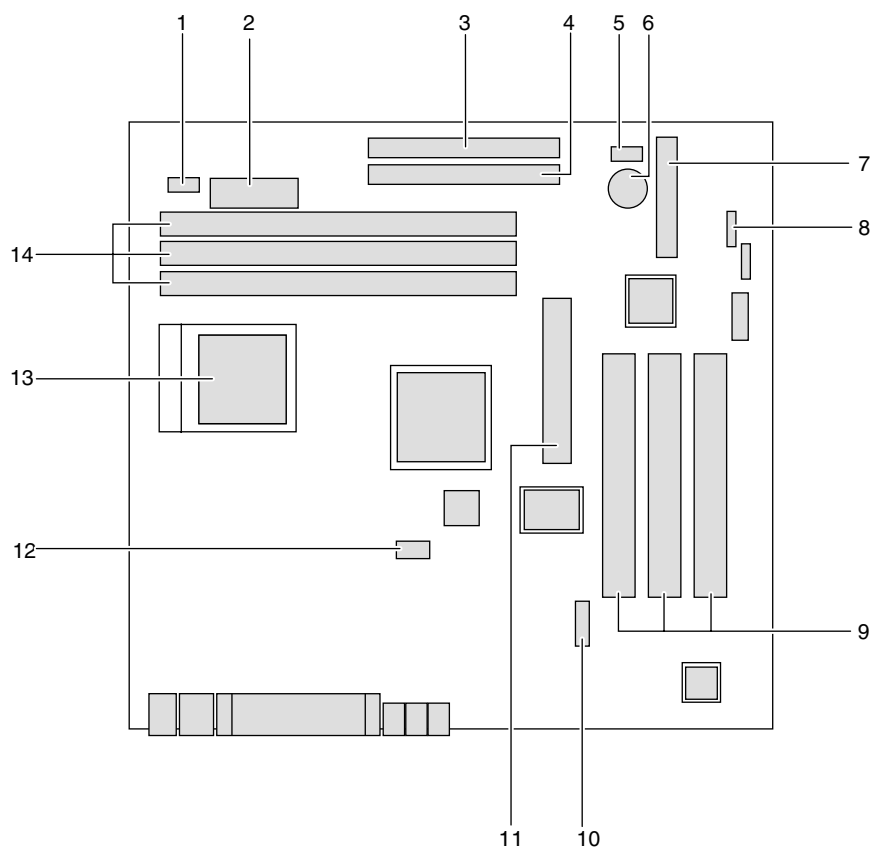
付録

Contents

1 システムボード	110
2 コネクタ仕様	112
3 お手入れ	117
4 筐体のセキュリティ	120
5 保守修理サービスのご案内	121
6 保証について	122
7 その他の注意事項	123

1 システムボード

システムボード



- 1 CPU ファンコネクタ
- 2 電源コネクタ
- 3 プライマリ IDE コネクタ
プライマリ IDE 用のケーブルを接続します。
- 4 セカンダリ IDE コネクタ
セカンダリ IDE 用のケーブルを接続します。
- 5 システムファンコネクタ 1

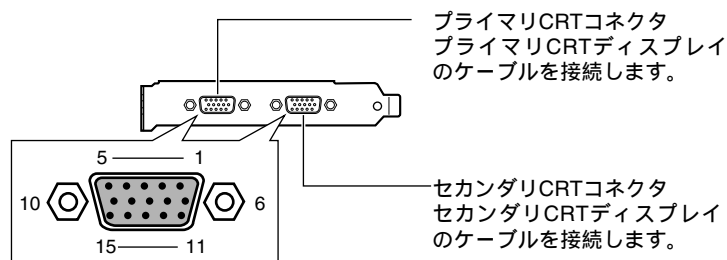
- 6 内蔵バッテリー
本ワークステーションの時計機能と BIOS セットアップで設定した各設定を保存するためのバッテリーです。約 5 年間ご使用になれます。
- 7 フロッピーコネクタ
フロッピーディスクドライブのケーブルを接続します。
- 8 ジャンプスイッチ (JP14)
パスワードを消去するときに、ジャンプセッティングを行います。
- 9 PCI スロット
PCI カードを取り付けます。図中左から 1 ~ 3 と並んでいます。
- 10 CD-IN コネクタ
CD-ROM ドライブのオーディオケーブルを接続します。
- 11 ビデオカードスロット
ビデオカードを取り付けます。
- 12 システムファンコネクタ 2
- 13 CPU
- 14 メモリスロット
メモリモジュールを取り付けます。図中下から 1 ~ 3 と並んでいます。

2 コネクタ仕様

各コネクタのピンの配列および信号名は、次のとおりです。

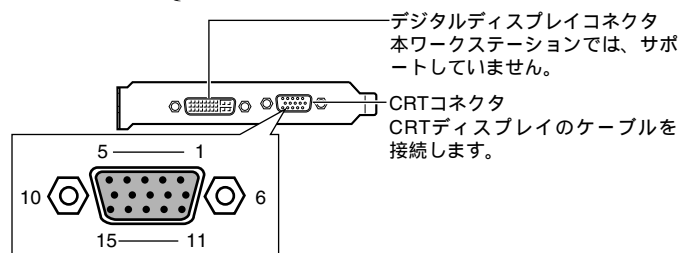
ディスプレイコネクタ

- Matrox Millennium G450



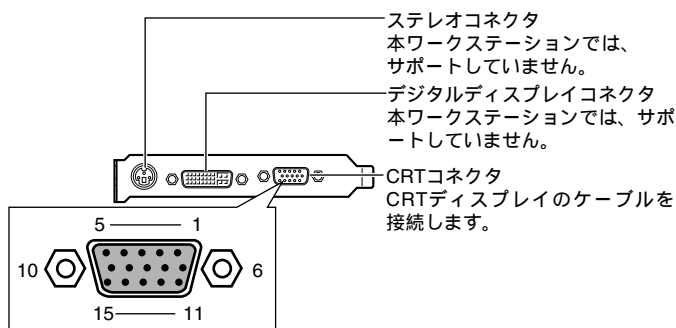
ピン No.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5 ~ 8	GND	-	グラウンド
9	+5V	-	+5V
10	GND	-	グラウンド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

- CELSIUS Quadro2 MXR



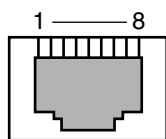
ピン No.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5 ~ 8	GND	-	グランド
9	+5V	-	+5V
10	GND	-	グランド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

• CELSIUS GL2



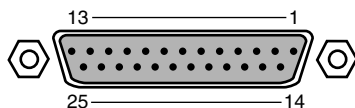
ピン No.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5 ~ 8	GND	-	グランド
9	+5V	-	+5V
10	GND	-	グランド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

LAN コネクタ



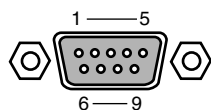
ピン No.	信号名	方向	内容
1	TD+	出力	送信データ +
2	TD-	出力	送信データ -
3	RD+	入力	受信データ +
4	NC	-	未接続
5	NC	-	未接続
6	RD-	入力	受信データ -
7	NC	-	未接続
8	NC	-	未接続

パラレルコネクタ



ピン No.	信号名	方向	内容
1	STROBE	入出力	ストロブ
2	DATA0	入出力	データ 0
3	DATA1	入出力	データ 1
4	DATA2	入出力	データ 2
5	DATA3	入出力	データ 3
6	DATA4	入出力	データ 4
7	DATA5	入出力	データ 5
8	DATA6	入出力	データ 6
9	DATA7	入出力	データ 7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18 ~ 25	GND	-	グラウンド

シリアルコネクタ



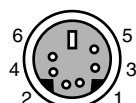
ピン No.	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

マウスコネクタ



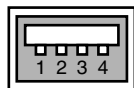
ピン No.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グランド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

キーボードコネクタ



ピン No.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グランド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

USB コネクタ



ピン No.	信号名	方向	内容
1	VCC	-	ケーブル・電源
2	-DATA	入出力	- データ信号
3	+DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グラウンド

3 お手入れ

本ワークステーションのお手入れのしかたは、次のとおりです。



感 電



お手入れをする場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。

ワークステーション本体のお手入れ

- 柔らかい布でから拭きします。から拭きで落ちない汚れは、中性洗剤をしみ込ませ固くしぼった布で拭きします。汚れが落ちたら、水に浸して固くしぼった布で、中性洗剤を拭き取ります。拭き取りのときは、ワークステーション本体に水が入らないようにご注意ください。
- 通風孔にほこりがたまらないように、掃除機でほこりを吸引するなど、定期的に清掃してください。
- 中性洗剤以外の洗剤や溶剤などをご使用にならないでください。ワークステーション本体を損傷する原因となります。

キーボードのお手入れ

柔らかい布でから拭きします。

CD のお手入れ

柔らかい布で、中央から外側に向かってから拭きします。汚れがひどいときは、柔らかい布を薄い石けん水に浸し、固くしぼって汚れを拭き取り、その後柔らかい布でから拭きしてください。

市販の CD-ROM クリーニングディスクを使って CD-ROM ドライブをクリーニングすると、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクをご使用にならないでください。

マウスのお手入れ

表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。

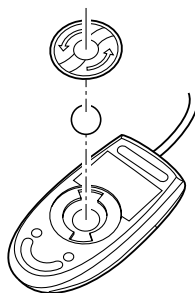
1 マウスの裏ボタンを取り外します。

マウス底面にある裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。



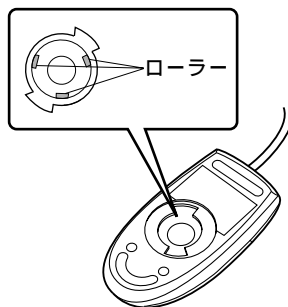
2 ボールを取り出して、水洗いします。

マウスをひっくり返し、ボールを取り出します。その後、ボールを水洗いします。



3 マウス内部をクリーニングします。

マウス内部、ローラー、および裏ボタンを、水に浸して固くしぼった布で拭きます。



4 ボールと裏ボタンを取り付けます。

ボールとマウスの内部を十分乾燥させたら、ボールと裏ボタンを取り付けます。

フロッピーディスクドライブのクリーニング

フロッピーディスクドライブは、長い間使用していると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売（サブライ品）のクリーニングフロッピーを使い、3 カ月に 1 回程度の割合でクリーニングしてください。

品名	商品番号
クリーニングフロッピーマイクロ	0212116

フロッピーディスクドライブのクリーニング方法

- 1 フロッピーディスクドライブにクリーニングフロッピーをセットします。
- 2 Windows NT / Windows 2000 のコマンドプロンプトから dir などのディスクにアクセスするコマンドを実行します。
例：次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
dir a:
```

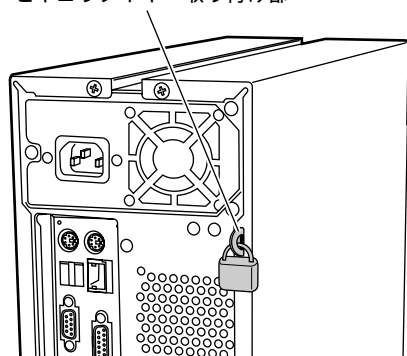
4 筐体のセキュリティ

本ワークステーション内部の装置（ハードディスクやCPUなど）を盗難から守るため、本ワークステーションのカバーに施錠することができます。

施錠の方法

セキュリティキー取り付け部にお手持ちの鍵を取り付けます。

セキュリティキー取り付け部



5 保守修理サービスのご案内

弊社では、保守修理サービスとして、次の「契約サービス」「スポット保守サービス」を用意しております。

お客様のご希望、ご利用状況に合わせたサービスをお選びのうえ、担当営業員または担当保守員にお申し込みください。

契約サービス

お客様と契約に基づき、装置管理を行います。

保守サービス料金は月額定期保守料をお客様に負担していただきます。

料金は定額ですので、お客様の予算管理も容易です。

定期保守サービス

トラブルを未然に防止するとともに、装置の機能維持を行うため、定期的に予防点検、整備調整作業を行います。万一の障害発生時には保守員がお客様に伺い、保守修理作業を実施いたします。

業務にご利用の場合などで、装置の使用頻度の高いお客様に最適なサービスです。

定額訪問修理サービス

万一のトラブルの際に、保守員がお客様に伺い、修理作業を実施いたします。

定額点検サービス

トラブルを未然に防止するための定期点検のみを実施する契約サービスです。

点検時の部品の交換、障害発生時の保守作業については別途有償とさせていただきます。

スポット保守サービス

必要に応じてその都度利用していただく保守サービスです。

保守サービス料金は、サービス実施の都度、お客様に負担していただきます。

スポット訪問修理サービス

お客様のご依頼により、保守員が修理にお伺いします。

修理料金はその都度ご精算いただきます。なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、訪問に必要な費用は別途有償となります。

アフターサービスなどについて、ご質問などがございましたら、担当営業員または担当保守員へお問い合わせください。

6 保証について

本ワークステーションの保証について説明します。

- 保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- 修理を依頼されるときには、必ず保証書をご用意ください。
- 本ワークステーションの保守部品の供給期間は、製造終了後 6 年間とさせていただきます。
- 部品の寿命による故障が発生する前に、予防交換を行う必要があります。交換周期は部品によって異なりますが、ハードディスクでは 20,000 時間の通電が目安となります。

7 その他の注意事項

国際エネルギースタープログラムについて

本製品は、Windows 2000 モデルにおいて、国際エネルギースタープログラムに適合しています。

高性能無停電電源装置のバッテリー

電源の投入 / 切断時間にかかわらず約 2 年経過すると交換時期となりますが、周囲温度により、バッテリー寿命が短縮されることがあります。
詳細につきましては、高性能無停電電源装置の取扱説明書をご覧ください。

SCSI カード (CLESC22) を使用する場合の注意事項

- 外付け SCSI 装置を接続する場合は 2 台までしか接続できません。外付け SCSI 装置を 3 台以上接続する場合は複数の SCSI カードに分けて接続してください。なお、外付け SCSI 装置を接続する場合に使用するケーブルは接続装置によって異なります。以下に示すものを使用してください。

[68pin(Wide)SCSI 装置を接続する場合]

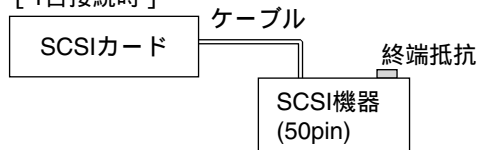
68pin(Wide)SCSI 装置を接続される場合、SCSI 装置に添付の SCSI ケーブル及び終端抵抗を使用して接続してください。
この場合、50pin(Narrow)SCSI 装置は接続できません。



[50pin(Narrow)SCSI 装置を接続する場合]

50pin(Narrow)SCSI はコネクタの形状として、フルピッチとハーフピッチの 2 種類があります。接続される場合、以下に示すものを選択してください。

[1台接続時]



ケーブル	SCSI 装置	終端抵抗
GP5-832	フル	FMV-692
GP5-833	ハーフ	FMV-695

[2台接続時]



ケーブル 1	SCSI 機器 1	ケーブル 2	SCSI 機器 2	終端抵抗
GP5-832	フル	FMB-CBL831	フル	FMV-692
		FMS-834	ハーフ	FMV-695
GP5-833	ハーフ	FMS-834	フル	FMV-692
		FMV-CBL32	ハーフ	FMV-695

- SCSI カードに添付のマニュアル（ユーザズガイド／インストールガイド）は本カードの全体に対し記している汎用のマニュアルです。CELSIUS ワークステーションとしてのサポート範囲を越えた記述がありますので、参考としてお読みください。
- 本カードは「Adaptec SCSI Select Utility」にて SCSI 設定の変更が可能です。「Adaptec SCSI Select Utility」の詳細につきましては本カードに添付されております「ユーザズ・ガイド」を参照してください。
- 本カードが複数枚搭載されている場合は、設定を変更したいカードを選択する必要があります。SCSI Select ユーティリティ起動時の選択メニューで PCI スロットの搭載位置を確認できます。
以下に選択メニュー値と搭載 PCI スロット位置関係を示します。

選択メニュー値	搭載スロット
29160 A at slot 03 2:00:00	PCI スロット 1
29160 A at slot 04 2:01:00	PCI スロット 2
29160 A at slot 05 2:05:00	PCI スロット 3

- CELSIUS 330 にて本カードを搭載した場合、SCSI Select ユーティリティにて「Configuration/View Adapter Settings」－「Boot Device Configuration」の設定内容が以下のように変更されますので、ご注意ください。

Boot Device Configuration

起動する外付け SCSI 装置が接続されている SCSI カードを選択します。

```

Boot Device Configuration
Single image.
Select Master SCSI Controller.. XXXXX
  
```

「XXXXX」を選択し、[Enter] キーを押します。
搭載されている SCSI カードの一覧が表示されますので、起動する外付け SCSI 装置の SCSI カードを選択し、[Enter] キーを押します。

スタンバイ状態からの復帰に関する注意事項

- 以下の要因でスタンバイ状態（ACPI S3（高度） / ACPI S1（標準）ともに）から復帰する際に画面に何も表示されない場合があります。

- 時刻指定
- LAN
- モデム着信
- PCI 拡張カード

この場合は、電源ランプが緑色に表示されていれば正常にスタンバイ状態から復帰しておりますので、キーボードまたはマウスを動かしてください。正常に画面が表示されます。

故障ではありませんのでご注意ください。

- CELSIUS GL2 搭載モデルにて以下の要因でスタンバイ状態（ACPI S3（高度）のみ）から復帰する際に下記の画面が表示されることがあります。

- 時刻指定
- LAN
- モデム着信
- PCI 拡張カード

```
Diamond Fire GL2 VGA Bios Version X.XX XX/XX/XX  
(C)copyright 2000 S3 Inc. All Rights Reserved.
```

この場合は、正常にスタンバイ状態から復帰しておりますので、キーボードまたはマウスを動かしてください。正常に画面が表示されます。
故障ではありませんのでご注意ください。

付録

索引

B

BIOS 設定 66

C

CD-ROM ドライブ 45

CD-ROM ドライブの取り外し 57

CMOS Setup ユーティリティ 66

L

LAN ケーブルの接続 34

LAN コネクタ 114

S

SCSI カード 123

U

USB コネクタ 116

え

エラーメッセージ 102

お

お手入れ 117

か

拡張カードの取り付け 63

拡張カードの取り外し 64

き

キーの役割 (CMOS Setup ユーティリティ) 68

キーボードコネクタ 115

キーボードの接続 34

け

契約サービス 121

こ

高性能無停電電源装置 123

さ

サイドカバーの取り付け 55

サイドカバーの取り外し 54

し

システムボード	110
受信障害防止	31
シリアルコネクタ	115

す

スポット保守サービス	121
------------------	-----

せ

接続	33
設置	30

て

ディスプレイケーブルの接続	35
ディスプレイコネクタ	112
ディスプレイ本体の電源ケーブルの接続 ..	36
電源ケーブルの接続	35
電源スイッチ	38
電源の入れかた	37
電源の切りかた	39

は

ハードディスク	49
パスワード	98
パラレルコネクタ	114

ひ

ビデオカードの取り付け	59
ビデオカードの取り外し	59

ふ

フロッピーディスク	43
-----------------	----

ほ

保守修理サービス	121
保証	122

ま

マウスコネクタ	115
マウスの接続	34
マルチプロセッサカーネル	62

め

メモリの取り付け	61
メモリの取り付け / 取り外し	56
メモリの取り外し	60

わ

ワークステーション本体前面の各部名称 ..	24
ワークステーション本体内部の各部名称 ..	28
ワークステーション本体の電源ケーブルの接続	36
ワークステーション本体背面の各部名称 ..	26

CELSIUS 330
ハードウェアガイド

P3F1-1490-01

発行日 2001 年 12 月
発行責任 富士通株式会社
Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利
の侵害については、当社はその責を負いません。
無断転載を禁じます。
落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。